第２８期社会教育委員会議協議結果報告

地域活動の活性化と
次代を担うなかまづくり

第２８期（平成２３年６月１日～平成２５年５月３１日）　富士見市社会教育委員

No.	氏名	所属・役職
1	中澤（ナカザワ）　佳珠代（カズヨ）	ちゃんとちゃんと公園をつくる会
2	羽石（ハネイシ）　貴裕（タカヒロ）	関沢キッズクラブ
3	前田（マエダ）　憲之（ノリユキ）	富士見市コミュニティ協議会
4	高野（タカノ）　昂子（アキコ）	富士見市文化協会
5	西山（ニシヤマ）ひろみ	富士見市青少年育成市民会議
6	児玉（コダマ）　亮一（リョウイチ）	市校長会
7	武田（タケダ）　秀規（ヒデノリ）	南畑公民館だより元編集委員長
8	田尻（タジリ）　円（マドカ）	水谷東小学校・学校応援団
9	佐藤（サトウ）　晃子（アキコ）	学識経験者（西九州大学短期大学部）
１０	長ヶ原（チョウガハラ）　美博（ヨシヒロ）	公募者

目　　次

Ⅰ　第２８期の研究協議にあたって　・・・・・　１

Ⅱ　協議の期日及び概要　・・・・・　２

Ⅲ　グループ協議内容（グループレポート）

１　Ａグループ「文化活動の活性化に向けて」　・・・・・　４

※Ａグループ委員

中澤　佳珠代（カズヨ）、前田　憲之、高野　昂子、田尻　円

２　Ｂグループ「（仮）地域活動の活性化に向けて」　・・・・・　９

※Ｂグループ委員

武田　秀規、西山ひろみ、羽石　貴裕、児玉　亮一、長ヶ原　美博

Ⅳ　まとめ　・・・・・１２

Ⅴ　資　料　・・・・・１３

Ⅰ　第２８期の研究協議にあたって

地域における市民活動力の低下と、それを支え担う「なかま」の減少から、地域活動はやせ細りの傾向となり、後継者不足が地域社会の大きな課題と認識されるようになっています。本市においても、従来の社会教育施策だけではなく、新たな課題への対応とともに、きめ細かな生涯学習活動の推進および地域コミュニティの支援を充実する取り組みが求められています。

こうしたことから、富士見市社会教育委員　第２８期（平成２３年６月～平成２５年５月）では、任期２年、１６回の定例会を開催しました。

社会教育委員会議において協議を重ね、大きく２つのテーマに絞り、社会教育関係団体の活性化に関する研究と社会教育関係団体の支援者・後継者育成に関する研究についての検討を行いました。

この協議を踏まえ、社会教育団体が抱える課題とその解決方法を探るため、平成２４年７月に「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」と題する調査を実施しました。さらに、この調査結果から課題抽出と考察を行うにあたり、文化活動団体及び社会福祉関係団体をまとめたグループ（以後　Ａグループ）と町会関係団体及び子どもに関わる活動団体全般をまとめたグループ（以後　Ｂグループ）の二つに分けてそれぞれ研究協議を行いました。

定例全体会議のほかグループでの協議、現地調査、事例収集などを行い、調査から浮かび上がった様々な意見をもとに検討、さらに各委員の研究と討議を重ねて、活力ある地域づくりの推進に寄与するべく、提言書としてまとめました。

この提言書は、本市の社会教育関係団体の現状に存する多くの課題を分析して、それぞれの活動に役立てるための助言とし、社会教育行政による一層の支援と、各団体の益々の活性化と連携が進むことを切に願いながら提出するものです。

Ⅱ　協議の期日及び概要

回	期　　日	場　　所	協議の概要
1	平成２３年6月１６日	サンライトホール 会議室	・第２８期の正副議長選出とスケジュールについて
2	平成２３年9月３日	教育委員会　会議室	・社会教育に関わるオリエンテーションについて
3	平成２３年１０月１日	教育委員会　会議室	・年間協議テーマについて
4	平成２３年１２月３日	教育委員会　会議室	・生涯学習関係研修会について ・年間テーマについての意見交換
5	平成２４年2月４日	教育委員会　会議室	・生涯学習フォーラムについて ・協議テーマについての意見交換
6	平成２４年3月１２日	鶴瀬西交流センター 集会室	・協議テーマについて ・平成２４年度予算（教育費）概要と社会教育関係団体に対する補助金交付について
7	平成２４年4月７日	教育委員会　会議室	・（仮称）社会教育関係団体の活性化について
8	平成２４年5月２５日	教育委員会　会議室	・協議テーマ「（仮称）社会教育関係団体の活性化」について
9	平成２４年6月２７日	教育委員会　会議室	・協議テーマ「（仮称）社会教育関係団体の活性化」について
10	平成２４年9月６日	教育委員会　会議室	・アンケート「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の検討について
11	平成２４年１０月６日	教育委員会　会議室	・アンケート「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の集計結果について
12	平成２４年１２月１日	教育委員会　会議室	・アンケート「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の結果について
13	平成２５年2月２日	教育委員会　会議室	・アンケート「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」のまとめについて
14	平成２５年3月２日	教育委員会　会議室	・「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の提言案について ・平成２５年度教育行政方針と社会教育関係団体に対する補助金交付について
15	平成２５年4月６日	教育委員会　会議室	・協議結果報告「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の提言案について
16	平成２５年5月２０日	教育委員会　会議室	・研究協議のまとめ・報告について
※このほか、グループ協議、聞き取り調査、現地調査を行いました。			

Ⅲ－１　Ａグループ　「文化等活動団体の活性化に向けて」

今回の調査については、その対象を大きく２つに分けて考察している。すなわち、公民館等でのサークル活動を中心とした文化・スポーツなどの活動団体と地域での活動を中心とした団体である。

Ａグループでは、今回のアンケートを実施した活動団体のうち、文化・学習・スポーツ・ボランティアなどの４６団体について、アンケート回答の分析を行うとともに、その内の４団体から聞き取り調査を行い、まとめてみた。

文化活動団体の現状について、アンケート調査より見えたことは、まず、各々の団体の共通点として、個人が自発的に団体に所属している点であり、また、活動場所、活動拠点が公民館、交流センターなど公共施設であることも多いということである。

二つ目には、調査を行なった４６団体のうち３８団体（８２%）の主活動メンバーが６０歳以上であったことで、富士見市の社会教育活動団体が非常に高齢化していることがわかった。そして、後継者が必要な団体が多いが適任者が見つからないことで、５０代以下の会員拡大が必要となっている。

三つ目には、会員の男女比率が、男性２０%以下で女性主体の活動である。特に、若い男性の参加が非常に少なく、男性会員の拡大が活動活性化の引き金となると考えられることである。

以上の現状から、団体の活動、組織がかかえる現状の課題やその原因分析、それらを改善できると考えられる提言を、団体・サークル活動未経験者の視点と団体・サークルのリーダー等の視点からまとめた。

（1）団体・サークル活動未経験者の視点

	課　　題	原　因　分　析	改　善　提　言
ア	・募集していることがわからない ・サークルの内容を知りたいが、直接問い合わせする勇気がない ・活動したいが踏み出せない ・仲間をつくると、楽しいの？ ・サークルの存在を知らない	・相談相手がいない ・だれに訪ねるのかわからない ・背中を押してくれる人がいない ・公民館に行かない、情報が無い	**行政に対する提言** ・公民館以外に（駅・図書館等）活動の相談窓口を設ける ・駅、図書館などに「体験希望ボックス」（※２）を設置 ・入会申込書類の書式統一、簡素化 ・ゆめ発見アドバイザー導入（※１） ・駅、図書館などに一元化した情報を配置する ・駅、図書館利用者に視覚的に活動団体を紹介する ・時間外の入会手続き受付
イ	・入会手続きが複雑 ・手続きをする場所が不便 ・休日に手続き出来ない	・書式不統一、判り難い ・休日の相談や申込みの窓口なし	
ウ	・サークル名から活動内容がわからない ・サークルの魅力が知りたい ・サークルのお試し活動をしたい ・指導者はどんな人なの？	・興味はあるが相談相手がいない ・だれに聞いたらよいか判らない	**サークルに対する提言** ・体験コーナーの設置 ・ゆめ発見アドバイサー導入 ・活動内容がわかりやすいサークル名称とするか、活動内容紹介文を添付する ・体験案内を市内各所に置く ・体験案内を展覧会、作品展などで配布する

※１ゆめ発見アドバイザー、※２体験希望ボックス導入については、８頁の考察にて説明する。

（2）団体・サークルのリーダー等の視点

	課　　題	原　因　分　析	改　善　提　言
ア	・退職した男性への取り組みをどうしたらよいか分からない ・広報ふじみ「市民伝言板」は会員募集に有効に使われていない気がする ・若いメンバーがいない ・公共施設利用方法がサークル活動にとって不便な所もある ・生涯学習課と市民団体の連携が弱い	・退職した男性は、地域における相談先が判らない人が多い ・年に一回の掲載では気付き難い。募集の有無が理解されていない ・公民館に行かない、情報がない ・夜間、休日相談窓口がない ・サークルへの加入申請手続きが複雑でわかりにくい ・行政が団体活動に対して理解と協力姿勢が弱い	**行政に対する提言** ・ゆめ発見アドバイザー導入 ・広報ふじみ「市民伝言板」の利用回数を増やす（「市民伝言板」を使いやすく） ・公共施設の利用者の声を良く聞いて見直しをする ・サークル活動情報を一元化する（狭山市市民交流センターで施行中） ・団体の活動内容を把握し、相談体制を明確化する
イ	・後継者がいない ・メンバーの減少、男性会員が少ない	・高齢化・後継者育成していない ・女性が多くて男性には抵抗がある	**サークルに対する提言** ・リーダーの負担軽減を目的に若い人に役割分担する方式採用 ・入会会員受入れ条件明示、 ・積極的会員募集活動 ・入会申込書類の書式統一、簡素化 ・駅、図書館などに「体験希望ボックス」設置の趣旨に協力し、行政の支援を得て入会会員拡大を図る
ウ	・ホームページの有効活用ができていない	・市民活動についての情報提供の位置付けが明確でない	**行政とサークルが協働する提言** ・ホームページを使い易く、双方向使用を可能にする ・インターネットでのサークル情報の確認や入会申込みなど対応できるようにする

（3）今回のアンケート調査結果から

① 文化等活動団体のアンケート解析 資料 （平成24年7月末集計）

アンケート対象団体 区　分	調査 団体数	団体名	訪問 団体	開始年齢	主活動年齢
障害者福祉	3	A		60	70以上
		B･C		50	40以上
国際協力	1	A	＊	60	40以上
学習	3	A･B･C		60	60以上
スポーツ	5	A（山歩き）	＊	40	60以上
		B（軽スポーツ）		60	60以上
		C（卓球）		40	70以上
		D（卓球）		60	60以上
		E（卓球）		20	60以上
街づくり	1	A		40	40以上
高齢者福祉	2	A･B		60	60以上
防災･人権	3	A･B		不明	
福祉	1	A		不明	60以上
地域安全	1	A		30	40以上
活動団体支援	1	A		40	60以上
文化活動	24	A（コーラス）		40	60以上
		B（コーラス）		40	60以上
		C（ギター）		60	60以上
		D（舞踊）		40	60以上
		E（舞踊）		20以下	60以上
		F（舞踊）		50	70以上
		G（民謡）		20	60以上
		H（水墨画）		50	60以上
		I（囃子）		20	60以上
		J（囃子）		20	60以上
		K（囃子）		20以下	60以上
		L（書道）		60	60以上
		M（書道）		40	60以上
		N（美術）		40	60以上
		O（吟剣詩舞道）		30	60以上
		P（囲碁）		30	60以上
		Q（華道）		20	70以上
		R（演劇）		60	60以上
		S（菊花）		50	70以上
		T（陶芸）		30	60以上
		U（工芸）		30	70以上
		V（人形劇）		30	40以上
		W（将棋）		30	60以上
		X（山野草）	＊	40	60以上
その他	2	A･B		50	70以上

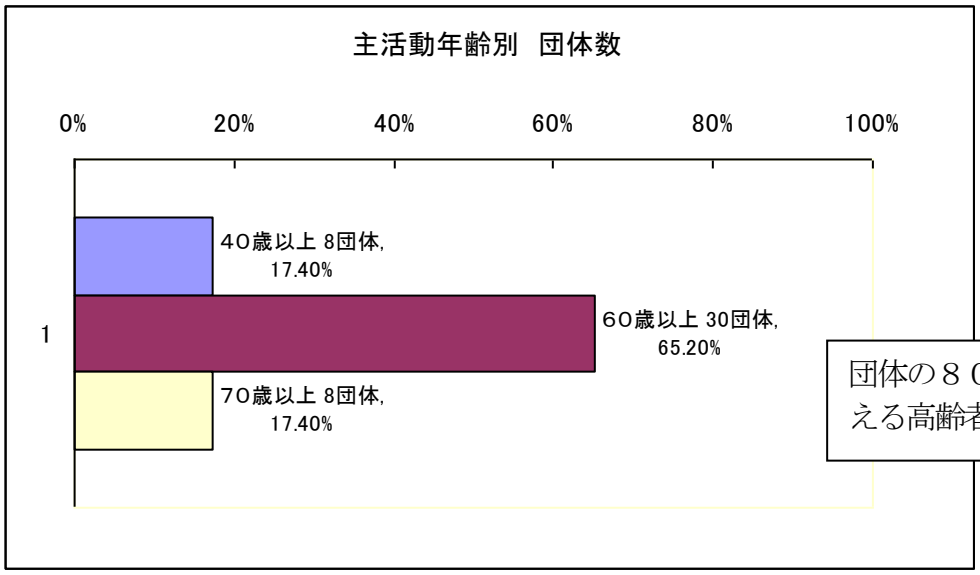
		C D E	＊	50 30 40	40以上 40以上 60以上
合計	46		4団体		

②アンケート調査より見えたこと

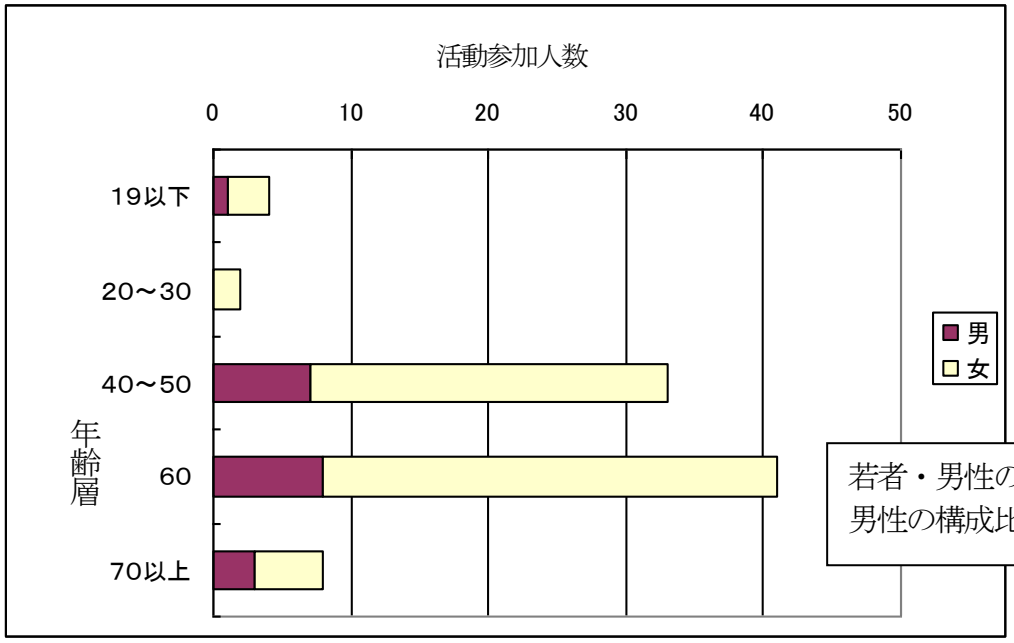
【問題の主眼】

ア.　調査を行なった46団体のうち38団体(82%)の主活動メンバーが60歳以上であった。
富士見市の社会教育活動団体が非常に高齢化していることがわかった。
後継者が必要な団体が多いが適任者が見つからない。 50代以下の会員拡大が必要。

イ.　会員の男女比率は男性20%以下で女性主体の活動である。
特に若い男性の参加が非常に少ない。
男性会員の拡大が活動活性化の引き金となる。



団体の８０%以上が６０歳を超える高齢者で構成されている。



このグラフの横軸の単位は人数です。また、このグラフはアンケートで活動人数の回答があった団体の物を使用しております

若者・男性の活動参加が少ない。
男性の構成比率も少ない。

（4）文化等活動団体の課題改善をするために

①　市民による「ゆめ発見アドバイザー」の配置

富士見市民が生涯にわたり、いきいきと豊かに、学びができる富士見市づくりを市と市民の協働により広くすすめる。そのために市民による「ゆめ発見アドバイザー」の配置を提案する。

ア．ゆめ発見アドバイザーの役割（※１）

○　生涯学習として何か始めたい人や、自分の希望に合ったサークルを求めている人の相談を受けて、よく話を聞き、市民目線で、市内の活動サークルの情報を紹介したり、アドバイザーの得意領域を中心に、希望するサークルに入会する手助けをする。

イ．『コーディネーター』の設置

○　ゆめ発見アドバイザーを発掘し、活動を継続させるための計画立案→推進→チェック→改善を繰返して、市とのパイプ役となり、ゆめ発見アドバイザーの相談に乗る、『コーディネーター』の設置が不可欠である。

※『コーディネーター』の位置付け。

○　市のサークル活動に詳しいこと（市内での活動経験が豊富な方。）
○　社会教育主事又はこれに準ずる資格をもっていること。
○　行政担当部局に対し意見を述べ、情報一元化実施等の助言ができること。
○　ゆめ発見アドバイザーの養成等に向けての助言ができること。

ウ．行政は、『コーディネーター』を設け、ゆめ発見アドバイザーに適切な人材を育成し、ア項の業務を委託する。

エ．市民が休日や時間外でも生涯学習の情報を円滑に得られる場所（公民館、駅、図書館など）を設けて、ゆめ発見アドバイザーを配置し、生涯学習活動を支援する。

②　「体験希望ボックス」の設置

ゆめ発見アドバイザーに相談しない場合でも、興味ある団体・サークルに容易に連絡を取りやすくするため、「体験希望ボックス」（※２）を設ける。

この「ボックス」で団体サークル宛てに投函すれば、ゆめ発見アドバイザーまたは職員が団体、サークルに伝えられ、団体・サークルからは希望者に連絡、話し合いができるシステムをつくる。

「体験希望ボックス」は公民館、駅またはその周辺、図書館など、市民が来やすい場所に常設しておく。

興味ある団体、サークルの活動を、試しに体験を希望する場合には、連絡方法など必要事項を記入し、当事者間で連絡を取り合い体験を通して入会しやすくする。

Ⅲ－２　Ｂグループ　「子ども・地域活動団体の活性化に向けて」

今回の調査について、その対象を大きく２つに分けて考察している。すなわち、公民館でのサークル活動等を中心とした文化・スポーツなどの活動団体と、地域での活動を中心とした団体（町会・子ども会育成会・地域子ども教室・学校応援団・ＰＴＡなど）である。

前者が趣味や嗜好をその動機として自発的に集まり活動しているのに対し、後者については行政等との関わりがあって、地域に資することが活動目的であり、公共的な活動団体である。

以下、後者の地域活動団体について見ていくが、その構成員の思考とは別に、地域住民や関連の他団体・行政等との密接な関連性を持って活動していることに留意しておきたい。

１．アンケートから読み取れる「活動の現状」

（1）地域を基盤とした各団体の傾向について

① ＰＴＡおよび子ども会育成会は、年齢層は 30～40 歳代を中心とした子育て世代である。主たる活動構成員はおおむね女性が多い。

② 学校応援団・地域子ども教室については、地域から広い年齢層が関わっており、男女別についても活動に応じた参画が得られているように見える。

③ 町会活動については、活動主体者の年齢層は高い。これは構成者が地域の各戸・各世帯を単位としていることによると見られる。

（2）活動に参画することにより自身に生じた変化・成果

① 活動を通して、多くの人とのつながりを得ることが出来た。

② 子ども関連の活動については、保護者が自身の子どもたちに地域の人が関わってくれることへの気づきや感謝が生まれている。また、活動へ関わること自体を楽しみに思えるようになったことも挙げられている。

（3）活動を行う上で重視していること：

① 活動と自分自身の仕事や生活とのバランスをはかること。

② 魅力ある行事を企画することによって、自身が楽しみ、また新しいなかまを増やすきっかけにしたい。

（4）活動の中心・代表メンバーについて

① 活動の中心的な存在になるのは、経験してきた団体や活動の中で、一定の段階でいわゆる「一本釣り」されるケース、少しずつ役割を重ねていくうちに「いつのまにか」というケース、本人が何か課題や魅力に惹かれて「自己実現」をしていくケースとが考えられる。

② それぞれの団体が、どのような「担い手」「リーダー」を必要としているかは、今回の調査票だけでは見えてこない。

③ なお、ＰＴＡや育成会などは、組織の性質上その構成員に制約や制限があり、「担い手」を育てるという目当てや、そのための時間を割くことができない現実もある。

（5）仲間をふやすために取り組んでいること

① 男性など就労者が関わりやすい時間に活動や会議を設定する。

② 役割分担の見直しをはかる。

③ 自分自身が楽しめるような、魅力ある行事を企画すること。

④ 各種の行事で、あいさつや声かけなどコミュニケーションを多く働きかけ、交流の機会をもつ。

２．アンケートから読み取れる「課題」

（1）活動での実務や役割の分担と効率化をはかりたい。

① 一方で、効率化のためにこれまでの経験や実績を活かそうとすると、活動内容のマンネリ化をまねく側面がある。

（2）魅力ある行事を企画することによって、自身が楽しみ、また新しいなかまを増やすきっかけにしたい。

① しかし、上記の通り「実務の効率化」を重視すると、前項のとおり過去の行事を踏襲していくことになるジレンマがある。

② また、興味や関心をひく活動を志向しても、団体のもつ本来の活動目的との整合性に悩む場合も。

（3）活動への参加者をふやすこと。

① ただし、「参加するだけ」の人が多くても、運営の当事者になることには関心が低いことがある。

（4）活動は役員まかせで、自分自身（町会）や自分の子どもが所属している団体であっても関心が薄い。

（5）組織である以上、リーダーは必要であるが、現状ではいずれの団体でもリーダーの負担感が大きいことを懸念している。

（6）会議の数が多く、仕事やプライベートの時間との両立が難しい。特に子どもをもつ家庭では、その負担は家族（子ども）に及ぶ。

① その要因は、「長」などの役員になると他の活動団体への動員が増えるためであろう。こうした負担の軽減は、いずれの団体にも共通する課題。

（7）いずれの団体においても、行政や連合体組織の支援・バックアップが望まれている。

① 行政は町会組織等をあてにしている（広報や民生活動などから防災にいたるまで）。

② その一方で、市民に対して町会の必要性のアピールが足りない。

（8）町会の役員は高齢化がすすみ心配である。

（9）世代間でのライフスタイルや価値観の差があり、運営の中で意識の共有化が難しい。

⑽ 自分たちの住む地域を改善していくという意識をいかに創り出していくか。

３．活動をすすめていくための「提言」

（1）役員だけでなく、経験者はサポートの形で活動に関わる**《組織内の運営支援者》**

① リーダーを支える運営支援者として、価値観を共有できるスタッフを配置しましょう。

② 役員の負担を軽減するために、活動方法など組織全体として工夫をしてみましょう。

（2）活動の広報周知によって、参加者をふやす**《交流による広報活動》**

① 各種の行事で、あいさつや声かけなどコミュニケーションを多く働きかけ、交流の機会をもってみましょう。

② 子どもたちには大人が活動を通して地域に貢献する姿を、大人には子どもたちの笑顔を見る機会を通じて、地域の活動に関心を持ってもらいましょう。

③ 赤ちゃんのいる世代から、親子で参加できるコミュニティをつくり、それを子どもの成長につれて連鎖継続させていきましょう。

（3）さまざまな地域活動での連携が求められる**《連携と相互支援》**

① 活動のノウハウなど、組織内また他の組織や地域での情報の交換をしましょう。

② 学校から地域まで、各団体が連携し、お互いの経験・実績を持ち寄って、共同で事業を行ってみましょう。

③ 事業やイベントが重なる時期があれば、相互に調整し、協力をしあいましょう。

④ 乳幼児の子育て世代や、また高校生・大学生などを、地域活動に誘ってみましょう。そのきっかけとなるような企画も考えてみましょう。

（4）外部の団体や有識者とのつながりをもつ**《外部との人的交流》**

① 外部の社会教育団体やその活動との連携や交流の機会をつくってみましょう。

② 自らの活動に、人的・質的な余裕と拡がりが生まれたり、活動のヒント（アイデアや人脈）が見出せることがあります。

（5）行政や連合体組織からの支援・バックアップが望まれている**《行政ほか外郭からの支援》**

① 行政の担当所管や上部組織等の関係性を把握しておきましょう。

② 行政においては、各団体の要請に応じた随時の相談体制を充実させてください。

Ⅳ　まとめ

東日本大震災を契機に、地域における「つながり」や地域活動の必要性・重要性が改めてクローズアップされています。また近年では、twitter や facebook などソーシャルメディアを介した「つながり」や「なかまづくり」が、とりわけ若い世代において盛んです。他方で身近な地域に目を向けてみると、地域活動はやせ細りの傾向にあり、実際に地域の活動団体が休止や廃止に追い込まれるなど、団体の存続すら危ぶまれる状況となっています。「なかまづくり」は地域活動や地域づくりの原点であり必要不可欠なものと言えますが、それが最も困難なのが現代という時代かもしれません。

以上のような状況は、本市でも同様です。今回実施した、富士見市社会教育関係団体を対象とした調査結果からも、リーダーの負担が大きい、担い手・メンバーがいない、高齢化が進んでいる、若い人が参加しない等といった多くの課題が明らかとなりました。本報告書では、こうした調査結果と第 28 期社会教育委員会議での議論をもとに、「なかまづくり」をキーワードにして、地域活動の活性化の方策を出来る限り具体的に提起しました。また、「文化等活動団体」と「子ども・地域活動団体」という性質の異なる二つの団体それぞれに分けて分析を行うことで、より現実に即した分析や提言となったのではないかと思います。

そして、「一人ひとりがいかにその活動を楽しめるか」ということがいずれの団体の分析からも浮かび上がってきた課題と言えます。一部の人だけに負担が重くのしかかったり、仲間内の活動になっているのでは「なかまづくり」も地域活動の活性化も望めません。一人ひとりが楽しみ、それを人と分かち合い広げていくということこそがまさに「なかまづくり」であり、それが活動への主体的・積極的な参加へとつながって、活動・団体も発展・継続していくはずです。地域への愛着も「なかま」がいることから生まれてくるのではないでしょうか。その方法や工夫を、「提言」としてまとめています。

特に、「文化等活動団体の活性化に向けて」で問題提起している「ゆめ発見アドバイザー」や「コーディネーター」の設置については、「子ども・地域活動団体」でも共通する課題でもあり、行政課題として検討を進めていただきたいと思います。

今回のまとめは、行政や市民に広く読んでいただけるよう、現状分析に基づいた提言を、具体的かつコンパクトにまとめました。また、そのバックデータとして、各種調査結果を巻末に資料として掲載しました。議論や内容に不十分な点もありますが、この報告書を元にご議論いただき、今後、社会教育施策や活動をすすめていく際の一助になれば幸いです。

Ｖ　資　料

１　Ａグループ「提言にあたっての資料」　・・・・・　１４

２　Ｂグループ「提言にあたっての資料」　・・・・・　２１

３　アンケート調査用紙　・・・・・　４１

１　Ａグループ「提言にあたっての資料」

（１）アンケート調査から抽出した団体からの聞き取り調査について

①　目　的

活発なサークルでは、どのような活動理念を持たれているかを伺い、活動を見学する。
活動衰退サークルの復活・活性化に向けての参考とする。

②　聞き取り団体について

日本語サークル
やまびこ山草会
なんでもチャレンジ隊
埜歩歩富士見山の会　　以上４団体から行った。

③　聞き取り内容について

＜質問事項＞

1　サークル設立のきっかけは　　(活動の内容は)
2　活動を始められたきっかけは
3　活動の中心世代は
4　メンバーの募集方法は
5　活動の楽しみは何ですか
6　活動の発表はどのようにしていますか
7　サークル活動をすすめる中で行政への要請事項があれば聞かせて欲しい
8　会費はどうされていますか
9　メンバーに若い方がどのくらいいますか（人数は？）
10　民間カルチャースクールでなくサークル活動をしているわけは
11　後継者はいますか。後継者育成の工夫はされていますか。

（２）現地調査（狭山市生涯学習情報コーナーについて）

・実施日時：平成 25 年 3 月 27 日(水)
・場　　所：狭山市市民交流センター
・調査研修内容：
　①「さやま生涯学習をすすめる市民の会」の活動について
　②　狭山市生涯学習情報コーナー

狭山市駅前にある「狭山市民交流センター」

①「さやま生涯学習をすすめる市民の会」の活動について

ア）さやま生涯学習をすすめる市民の会組織と活動について

さやま生涯学習をすすめる市民の会（以下、市民の会と略する。）は、平成 17 年 8 月に設立した「市民の生涯学習を市民みずから支援する」市民組織です。現在、お知らせ･支援･活動・交流を柱として、行政と協働しながら、４つのグループ（業務、案内人、情報、学習）で活動しています。

「市民の会」の目指す方向

「学び」をキーワードに、狭山市内で活動する個人や団体のネットワーク化と支援を一層進め、市民が元気で生き生きと心豊かに活動できるまち「生涯学習都市さやま」の実現をめざします。

市民の会は、学校教育のみならず社会教育や職業教育、さらに家庭や民間、地域で行われる種々の教育的機能を、生涯学習の観点から総合的にとらえなおし、市民の立場から一層の支援をすすめていきます。

イ）生涯学習案内人ボランティアの取り組みについて

ａ）生涯学習情報コーナーの概要について

平成 24 年 7 月 18 日に、狭山市駅西口の市民交流センター内に「生涯学習情報コーナー」がオープンしました。「生涯学習情報コーナー」は、市民だれもがいつでもどこでも生涯学習に取り組めるように、生涯学習に関する情報提供や相談などに総合的に応じる窓口です。

ｂ）市民からの相談と生涯学習情報の提供について

ここでは、市民ボランティアが「生涯学習案内人」として、生涯学習に関するさまざまな相談を受け、その人に合った生涯学習情報を提供しています。主に、次のような情報を提供しています。

＊市内で活動しているサークル団体情報（約 1,500 団体）
＊生涯学習ボランティア講師情報
＊市内公民館等の施設情報
＊イベントや講座情報等

情報コーナーは、市民の会が狭山市より委託されて運営しています。

c）生涯学習情報の一元化について

狭山市では、誰もが生涯にわたり心豊かに学ぶことの出来る街づくりを推進しています。何かを学びたい、何かに参加したいときにまず必要なのが、現在行われている生涯学習活動や市民活動の情報です。誰もがいつでも簡単に希望の活動が見つけられるように、狭山市の公民館・集会所・スポーツ施設・コミュニティセンター・学校などで活動している約 1,500 の生涯学習団体情報を一元化し、分かり易く記載した冊子「さやま学びの仲間たち」を作成し、ポータルにも掲載しています。「市民の会」は市と協働でこの活動に取り組んでいます。また、講師を探したい人は「狭山市生涯学習ボランティア制度」に登録している講師から探すことが出来るようになっています。いずれも、冊子とポータルから探すことが出来ます。

ウ）「生涯学習案内人養成コース」の取り組みと人材発掘について

「狭山げんき大学」では、「生涯学習案内人養成コース」を開設して、市民を対象に情報コーナーの案内人としての人材発掘と人材育成を図っています。「生涯学習案内人養成コース」は、「狭山げんき大学」から「市民の会」に運営を委託され、実際の案内人が受講者に対してのチューター役を務めています。

②狭山市生涯学習情報コーナー

市民のだれもが、いつでも、どこでも生涯学習に取り組めるよう、生涯学習に関する情報提供や相談などに総合的に応じる窓口である。

市民による生涯学習推進組織である「さやま生涯学習をすすめる市民の会」と市との協働で運営している。

生涯学習案内人が情報提供・相談・案内などのために従事していて、「何かを学びたい人」「サークル活動を始めたい人」を待っている。

生涯学習情報コーナー窓口

・場所　〒350-1305　狭山市入間川 1-3-1　狭山市市民交流センター2 階
（西武新宿線　狭山市駅　徒歩３分程度）

・開設日時　　年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）及び施設点検日等を除く毎日、
8:30～22:00（ただし、案内業務は 17:00 まで）

・案内情報の対象は、市内で活動しているサークル団体（約 1500 団体）
・生涯学習ボランティア講師情報　市内公民館等の施設情報イベントや講座情報など

お問い合わせ　生涯学習情報コーナー　TEL:04-2937-3621
※電話対応時間は 8:30～17:00 となります

＜さやまなびぃネット～狭山市生涯学習情報検索システム～＞

生涯学習団体情報や講師情報が検索できるシステム

「さやまなびぃネット」では、狭山市内の公民館・富士見集会所・体育館等で活動しているサークルの情報や狭山市生涯学習ボランティア制度に登録している方の講師情報を案内している。

サークル情報を調べたい　⇒　さやま学びの仲間たち

「何かを学びたい」、「仲間をつくりたい」、「他のサークルと交流したい」と思われたときなどにご活用ください。

・情報の掲載にあたっては、いずれも承諾をもらっている。
・掲載されている情報については、変更が生じている場合がある。
・この情報をご自身の生涯学習の目的以外に利用することは禁止している。
・情報を掲載したい場合は狭山市教育委員会社会教育課まで連絡する。

活動場所やフリーワードで検索できる！

・検索条件

①活動内容　語学・会話　学習・活動　邦楽　踊り　演芸　文芸　教養　美術　写真・映像　楽器演奏　レクリエーション　スポーツ・球技　ダンス　料理　鑑賞　歌唱　園芸・盆栽　ゲーム等　手工芸　健康・体操

②活動地区　全て　入曽　入間川　奥富　柏原　狭山台　新狭山　堀兼　水富　市外

③活動場所　全て　入曽公民館　奥富公民館　柏原公民館　狭山台公民館　新狭山公民館　中央公民館　広瀬公民館　富士見公民館　富士見集会所　堀兼公民館　水富公民館　水野公民館　入間川小学校　入間川中学校　入間川東小学校　入間中学校　入間野小学校　入間野中学校　奥富小学校　柏原小学校　柏原中学校　笹井小学校　狭山台小学校　狭山台中学校　山王小学校　山王中学校　新狭山小学校　中央中学校　西中学校　東中学校　広瀬小学校　富士見小学校　堀兼小学校　堀兼中学校　御狩場小学校　南小学校　狭山台体育館･プール　市民総合体育館　原河川敷公園サッカー場　河川敷中央公園　狭山台中央公園　狭山台４号公園　智光山公園　智光山公園テニスコート　広瀬河川敷公園　武道館　勤労福祉センター　コミュニティセンター　サピオ稲荷山　狭山台児童館　産業労働センター　サンパーク奥富　市民会館　社会福祉会館（社会福祉協議会）　消費生活センター　消防本部・消防署　保健センター　堀兼・上赤坂公園　ユースプラザ　老人福祉センター寿荘　老人福祉センター宝荘　老人福祉センター不老荘　中央図書館　農村環境改善センター　博物館

ジャンルで検索できる！

語学・会話・・・英語 ｜ 韓国語 ｜ スペイン語 ｜ 中国語 ｜ ドイツ語 ｜ 日本語 ｜ フランス語

学習・活動・・・ＰＴＡ・保護者会 ｜ 学校教育 ｜ 環境 ｜ 芸術・文化活動 ｜ 健康づくり学習 ｜ 国際交流 ｜ 子育て支援 ｜ 寿会・老人クラブ ｜ 自然観察 ｜ 宗教の学習 ｜ 生涯学習・社会教育 ｜ 食文化研究 ｜ 人権・平和 ｜ 生活・家政学 ｜ 政治・法律の学習 ｜ 青少年健全育成 ｜ 青少年の活動 ｜ パソコン・コンピュータ ｜ 福祉 ｜ 文学研究 ｜ ペット ｜ 編集・ジャーナル ｜ ボランティア ｜ まちづくり・コミュニティ ｜ 歴史研究 ｜ 労働問題学習 ｜ 朗読・よみきかせ・話し方・語り

邦楽・・・邦楽全般 ｜ お囃子 ｜ 吟詠 ｜ 筝 ｜ 尺八 ｜ 三味線 ｜ 太鼓 ｜ 大正琴 ｜ 長唄・謡曲 ｜ 民謡 ｜ 横笛・篠笛

踊り・・・阿波踊り ｜ かっぽれ ｜ 日本舞踊・新舞踊 ｜ 民踊 ｜ よさこい・ソーラン

演芸・・・演劇 ｜ 人形劇 ｜ 能・狂言

文芸・・・絵本づくり ｜ 随筆・小説・童話・作文 ｜ 短歌 ｜ 童句 ｜ 読書・古典読書 ｜ 俳句

教養・・・華道 ｜ 着付け・着装 ｜ 香道 ｜ 茶道 ｜ 書道・ペン字 ｜ フラワーアレンジメント

美術・・・美術・芸術全般 ｜ イラスト・精密画・デッサン ｜ 絵手紙・はがき絵 ｜ 切り絵 ｜ 水彩画 ｜ ちぎり絵・はり絵・和紙絵 ｜ 日本画・水墨画 ｜ 版画 ｜ 油彩画

写真・映像・・・映像 ｜ 写真

楽器演奏・・・楽器演奏全般 ｜ ウクレレ ｜ オカリナ ｜ 管楽器 ｜ 管弦楽 ｜ ギター ｜ 弦楽器 ｜ ジャズ ｜ 吹奏楽 ｜ ハーモニカ ｜ ハワイアン ｜ バンド・ビッグバンド ｜ 民族楽器演奏 ｜ リコーダー

レクリエーション・・・レクリエーション全般 ｜ インディアカ ｜ グラウンドゴルフ ｜ ゲートボール ｜ スポーツ吹き矢 ｜ ペタンク

スポーツ・球技・・・合気道 ｜ 空手 ｜ 弓道 ｜ 剣道・居合道 ｜ サッカー ｜ 少林寺拳法・日本拳法 ｜ スポーツ少年団等 ｜ ソフトボール ｜ 卓球 ｜ 綱引き ｜ テコンドー ｜ テニス（軟式・硬式） ｜ なぎなた・槍術 ｜ なわとび ｜ バスケットボール ｜ バドミントン ｜ バレーボール・ソフトバレーボール ｜ ミニテニス

ダンス・・・アルゼンチンタンゴ ｜ 車いすダンス ｜ 社交ダンス ｜ ジャズダンス ｜ スクエアダンス ｜ ダンススポーツ ｜ バレエ ｜ ヒップホップ ｜ フォークダンス ｜ フラダンス ｜ フラメンコ ｜ ラウンドダンス ｜ レクリエーションダンス

料理・・・お菓子づくり ｜ 料理

鑑賞・・・映画鑑賞 ｜ 古典芸能鑑賞

歌唱・・・合唱・コーラス ｜ カラオケ ｜ シャンソン・カンツォーネ ｜ 声学 ｜ 童謡・唱歌

園芸・盆栽・・・家庭農園 ｜ 園芸・盆栽 ｜ ガーデニング

ゲーム等・・・囲碁 ｜ カードゲーム・テーブルゲーム ｜ かるた・百人一首 ｜ 将棋 ｜ マジック ｜ 麻雀

手工芸・・・手芸全般 ｜ 工芸全般 ｜ 編み物 ｜ 押し花 ｜ 折り紙 ｜ 木彫り・木工 ｜ 木目込 ｜ 組み木 ｜ 刺繍 ｜ 七宝焼き ｜ ステンドグラス ｜ 染め物 ｜ 篆刻 ｜ 陶芸 ｜ 籐工芸 ｜ トールペイント ｜ 粘土細工 ｜ パッチワーク ｜ バルーンアート ｜ 表装 ｜ ポーセリン ｜ レザークラフト ｜ 和裁

健康・体操・・・ウオーキング ｜ エアロビクス ｜ 気功 ｜ 健康体操・ストレッチ ｜ 自彊術 ｜ 新体操 ｜ 太極拳 ｜ 登山・ハイキング ｜ ヨガ ｜ リトミック・リズム体操・幼児体操

講師を探したい ⇒ 生涯学習ボランティア

狭山市生涯学習ボランティア制度のご利用にあたって

- 生涯学習ボランティアへの指導の依頼は、基本的に 5 人以上のグループとし、グループ側で、公共の場を学習会場として確保すること。 ただし、生涯学習ボランティアの承諾がある場合は、この限りではありません。
- 利用者は、指導内容・指導料・必要経費等についてのトラブルが生じないよう、生涯学習ボランティアと直接連絡を取り、 十分に打ち合わせをした上で、学習会を開催すること。
- 指導料や会場確保にかかる費用等については、すべて依頼者の負担となる。

分類やフリーワードで検索できる！

分類・・・ 全て 教養 くらし 芸術 健康・スポーツ
全て 生き方・コミュニケーション 音楽 球技 子育て 健康・ストレッチ ことば 園芸 絵画 自然科学 華道 介護 レクリエーション 社会 ゲーム 茶道 パソコン 手工芸 パフォーマンス 書道 歴史 料理・栄養 和装・礼法・マナー 伝統芸能 文芸

ジャンルで検索する！

教養・・・子育て ｜ ことば ｜ 自然科学 ｜ 社会 ｜ パソコン ｜ 歴史

くらし・・・生き方・コミュニケーション ｜ 園芸 ｜ 介護 ｜ ゲーム ｜ パフォーマンス ｜ 料理・栄養 ｜ 和装・礼法・マナー

芸術・・・音楽 ｜ 絵画 ｜ 華道 ｜ 茶道 ｜ 手工芸 ｜ 書道 ｜ 伝統芸能 ｜ 文芸

健康・スポーツ・・・球技 ｜ 健康・ストレッチ ｜ レクリエーション

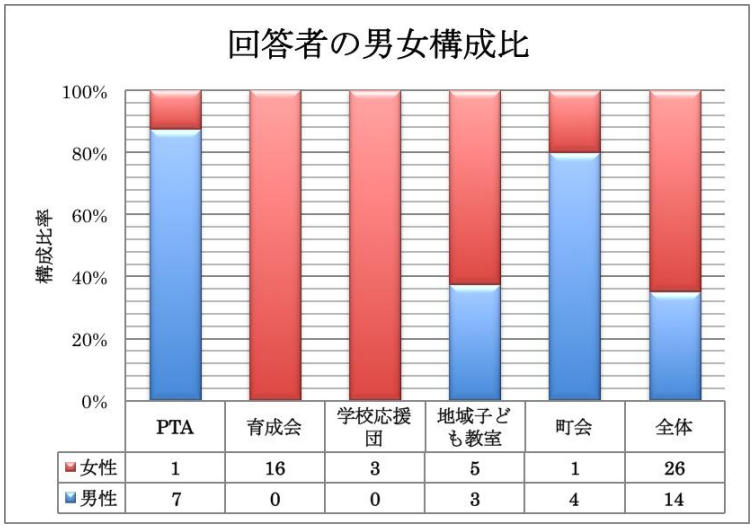
２　Ｂグループ「「提言にあたっての資料」

＜提言に当たってのアンケート集計の報告・分析とまとめ＞

【アンケート集計結果の報告・解析とまとめ】

Q4）地域活動の状況について

（１）　回答者の男女比



全体的には女性の構成比が多いが、PTA や町会については男性の構成が 8 割を超えている。各組織の構成メンバーではなく回答者＝組織の代表者などを示しているので、町会長や PTA 会長などは男性に任せるという傾向が現れているのかもしれない。

男女比による考察はやや難しい。しかしながら、団体としてみていく男女の構成比を推察することで状況がうかがえるのではないか。

① PTA：家庭数であるが、女性が PTA 活動の主たる構成員であること。しかしながら、回答者の多くは役員または歴代の経験者が多い。そのなかで、直面している課題が役員と実活動の意識によるものが少し違うのではないかということ。

② 育成会：地域組織、自治会構成によって若干違いはあるが、男性が少ない（ほぼ存在しない育成会もある）ことから、当市における育成会の現状は、家庭（母親と子）の活動が主たるものと推察することができる。男性の参画は、他市町と比べ極端に少ない。

③ 学校応援団：回答者が女性であったが、アンケート依頼者を各校において関係者男女２名ずつ等と聴取すればより精度の高い検証ができたかもしれない。
　学校が主たる活動で、多くの場合、学校が任命またはＰＴＡ役員や地域自治会からの依頼を受けての役員登用がほとんどであることから、男女差はそれぞれの校区特有の事情ではないだろうか。コーディネーターは男女性比ということよりは、多くの活動経験者が兼務を重ねることによって活動を行っている。

④ 子ども教室：役員はやや女性が多い。地区地域における活動への参加者は、その活動のねらいやプログラムによって、男性の多い回と女性の多い回に分かれる。ＰＴＡの参加は概ね少ない。こうしたことから、その地域の団体や自治会等の性差による参加比によって男女比の違いがでるのではないだろ

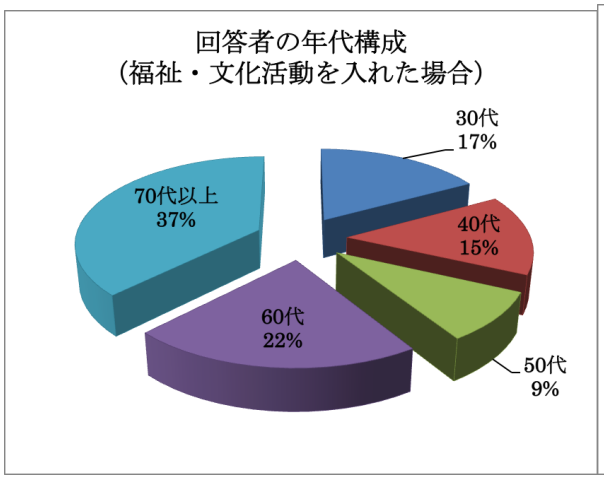
うか。代表者は男性、コーディネーターは女性というパターンが多く、男性は地域の取りまとめ役（親分肌）、女性は学校と子ども達の調整役（姉御肌）的な「役割」がここでも定着しているのではないか。逆に両役が男性あるいは女性であっても必ずお目付け役または御意見番が異性で存在していることが特徴的である。

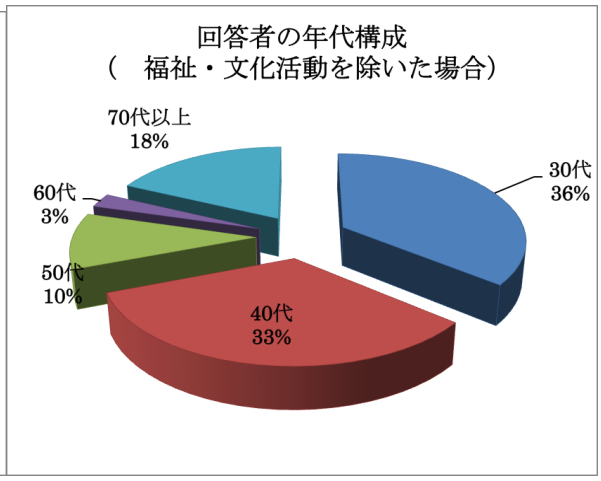
⑤　町会：地域性によるであろうが、構成者は戸別・世帯別であることから、男女差の特徴よりも年齢層が広範囲であることに着目すべき。班や区あたりの小組織体は女性の参加が多く、町会としての単位組織になると男性が多くなっていることから、回答者の多くは町会の広囲な役員である。
　後継者の悩みは恐らく、町会役員担い手であることより地域全体の高齢化もあるのではないだろうか。

全体を通して見ると、男女比を含めた検証は難しいが、従来からの組織は、性差によって役割分担をしてきたところが多い。一方、新しく組織された団体には比較的均等に存在することが多い。

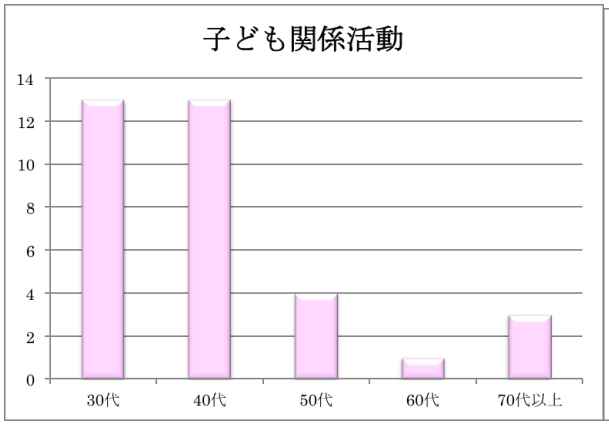
余談だが、スマートフォンなどメディア端末の進化と普及が進む中で、パソコンなどデジタル機器を扱えないことを理由に組織上層役員を断る事例は減少するのではないか。反面、ダブルワークやダブルスクール、介護、生活困窮問題などの事例が増えて、積極的に社会活動参加をする機会は更に減速するのではないかと思う。

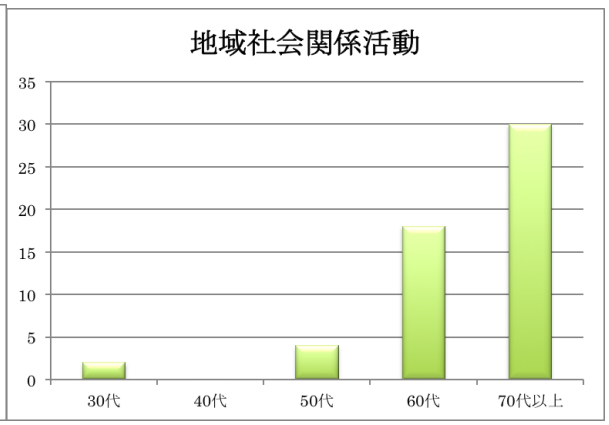
（２） 回答者の年齢
→活動の中心・代表メンバーの傾向についての考察



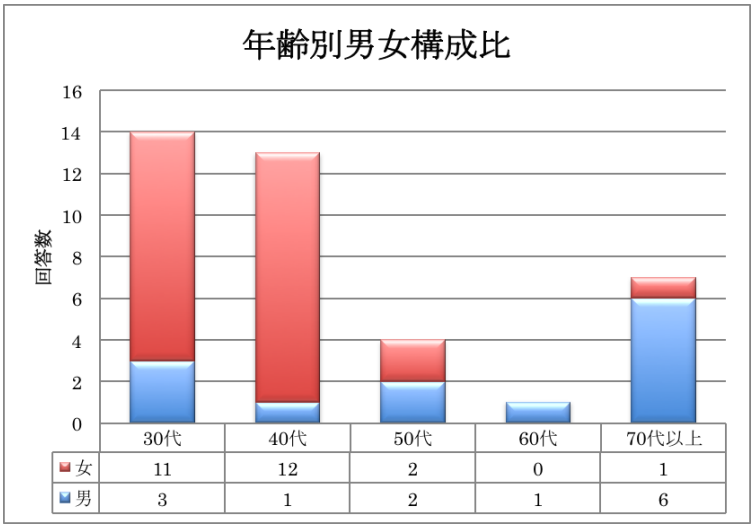


全体と、福祉・文化活動を除いた場合とでは構成が異なるが、30代や40代のリーダーは多い。一方、いずれも50代の構成割合が低い。





団体を大きく、子ども関係と地域社会活動に分けてみる。データ数は子ども関係35、社会関係54と若干の差があるものの、年齢構成比は対照的である。児童を持つ親が子ども関係活動に参画するのは当然といえば当然だが、逆に地域社会活動は 30 代から 50 代は少なく、60 代以上で圧倒的に増える。退職した年代層が、その後のライフワークとして地域社会活動に積極的に参画している現状を反映しているものと考えられる。



一方、子ども関係の活動の主体となっている 30 代～40 代は、ほぼ 9 割が女性である。逆に地域社会活動の主体となっている 60 代から 70 代以上は、データ数が少なくなるが、ほぼ 9 割が男性である。50 代は半々。
「子ども関係＝親としての義務感等」「地域社会関係＝生きがいやライフワーク等」

活動の目的や理念など、団体の支柱によって、リーダー的存在に位置づける年齢層が違う。性別、年齢、世代、家庭環境（核家族や扶養形態）、生活地域、自身の生涯学習スタイル、他者との関わり。また、その団体が対象（保護・支援・協力）とする年齢層によっても、リーダーとなる対象者の構成や性質が異なっている。

- 青少年団体等の対象者から見たリーダー：
  年齢幅が少ない、家族や友人などの近い存在。
- 地域団体におけるリーダー：
  年齢は多様、エリア（生活圏域）内、他者との交流。

以下は客観的な年齢層を踏まえ、回答者の年齢層を考慮。

① ＰＴＡ：子どもの成長課程における必須の支援団体（強制ではないが、できれば皆[保護者]で一緒に活動しましょう。支えあいの組織。

（ア）小学校は20代後半から概ね50代未満。

活動の中心になる保護者は、30代から40代に非常に多い。

20代～30代の保護者は、児童のほかに乳幼児の保育などからＰＴＡ活動等の機会に参加し難い、役員への拒否感が見られる。

30代～40代の保護者は、幼児期の子育てから解放される人も少なくなく、パートや正規雇用など就労の機会が増える。

単位小学校ＰＴＡ役員は、男女比で2：8、平均38～45歳前後

全小学校ＰＴＡ役員は、男女比で8：2、平均40～46歳前後

（イ）中学校は30代から概ね60代未満

中学校のＰＴＡ活動は、小学校と違い成長しているため組織的な支援が増える。保護者の生活スタイルも変わり「役員（回答者）」として前面で参画される方の多くは、過去に何らかの社会教育団体に参加もしくは関係職にいる方が多い。

単位中学校ＰＴＡ役員は、男女比で2：8、平均41～52歳前後

全中学校ＰＴＡ役員は、男女比で8：2、平均44～52歳前後

② 育成会：地域デビューのきっかけになりやすい。また女性が多く、年齢や育った世代・地域環境が近い等、仲良くなりやすい（仲良くしないと情報が得られない）しかし、サークル活動に男性が参加しにくい環境が往々にしてある。男性の多くが20代～40代で、就労中かつ子育て未経験といった環境から、子育てサークル～育成会～ＰＴＡといった地域デビューの機会を少しずつ失っているからである。

また、育成会が旧来と変わり、組織の衰退のほか、活動目的と内容のマンネリ化などから保護者（特に女性）が二の足を踏むことで、同居家族（特に男性）も「嫌悪感」を抱き、参加に遠のく傾向にある。

③ 学校応援団：比較的、役員の登用が幅広い（子ども教室も同様）、年齢的に考察することとしては、青年期と壮年期、高年代と見るべきだろうかと思う。

（ア）青年期に関わる：志や自己実現に向けた目標を持っている人が多く、誰かのために貢献することを自ら進んでやり遂げようという、前向きで将来有望な人材であるが、同時に、後継者としての重圧を強いることのないように大切にすべき存在だと思う。

（イ）壮年期：恐らく、子育ての途中または概ね子が手を離れつつありながらも、他者との関わりや、地域、子育て・子どもの活動などに従前から多く関わっている。しかし、役員の担い手が減少傾向にある現在では、負担が重なり少々疲れ気味で、役職など活動への重任などが増える一方で、次代の担い手の育成までに精を出せない現実にある。

（ウ）高年代：学校・家庭・地域において、人生でたくさんの経験値や人間関係を豊富に持っている、いわゆる地元の有名人的存在。この年代を境に「担い手」が減少し始める。

④ 町会：比較すると、全体的に年齢層が高い。調査対象を広げても恐らく危機意識は同じであろう。30代と70代のコミュニケーションや、50代と70代、30代と60代といった異世代間のコミュニケーションが常態的にできない。世代間の橋渡し的存在が慢性的に不足している。

会長及びその役員は、ほぼ高年代。班長・区長でも、一部青年や壮年がみられるが、ほぼ高年代。

（あまり関わると、いろいろ役員のほか地域行事に声がかかる、それを良しとするか面倒と思うかは世代によって捉え方が違う）

全体として、回答者の年齢は、ある一定の段階や地域デビュー過程を経てくることから、有志有識の方が回答されていることを念頭においておきたい。

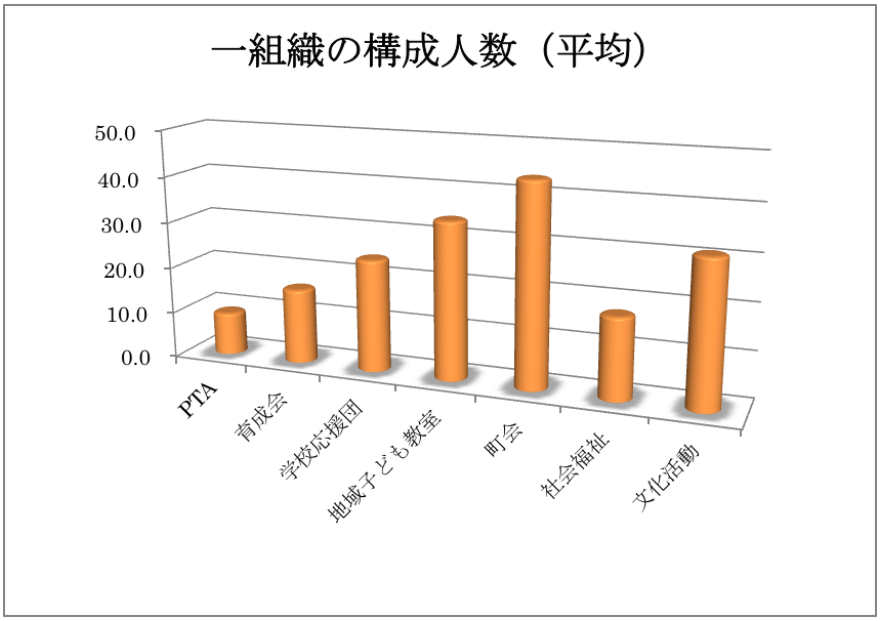
また、多くの団体や組織では、高校生や大学生の参画が少ない（ほぼ無い）ことに注視しておくべきであろう。市内に大学が無いとしても、社会教育団体に関係するネットワークや行政委員等に委嘱される学識者の方々とのつながりが希薄なのではないだろうか。特に大学等では研究テーマや単位取得につながるボランティア活動としての関わりが多く、純粋に社会教育活動の志を持った 10 代～20 代の若者の参画が少ないことを警鐘する必要がある。単位取得目的の学生がボランティア活動を経験して社会人になった後、新たに社会活動に興味を示すかどうかは不明。

（３） 活動にはじめた関わった時期
→中心・代表となるメンバーの傾向についての考察

	PTA	育成会	学校応援団	地域子ども教室	町会	小計
～10 代		2		1		3
20 代		2			1	3
30 代	5	10	1	4		20
40 代	1	2	2	1	1	7
50 代	1					1
60 代				1	4	5
70 代～				1		1
不明						
計	7	16	3	8	6	

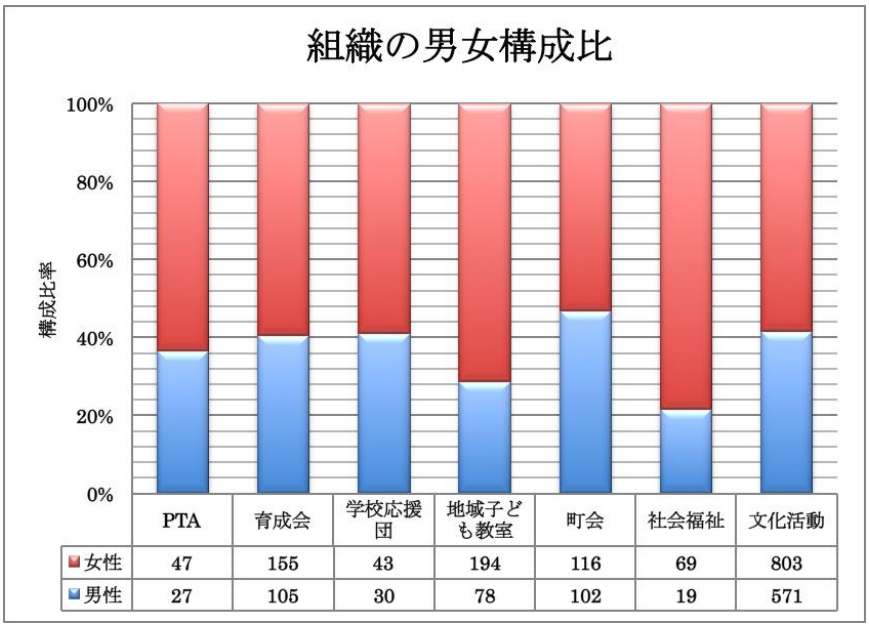
活動の中心的な存在になるのは、経験してきた団体や活動の中で、一定の段階で「一本釣り」されるケース、少しずつステップを踏んでいくうちに「いつのまにか」というケース、何か課題や魅力に惹かれて自己実現をしていくケースである。
ただ、多くの社会教育団体は、役員改選など人の入れ替わりがあるタイミングに出会う人物・世代が存在するかどうかなのではないだろうか。

（４） 組織の構成人数と男女比、年代比
→傾向についての考察



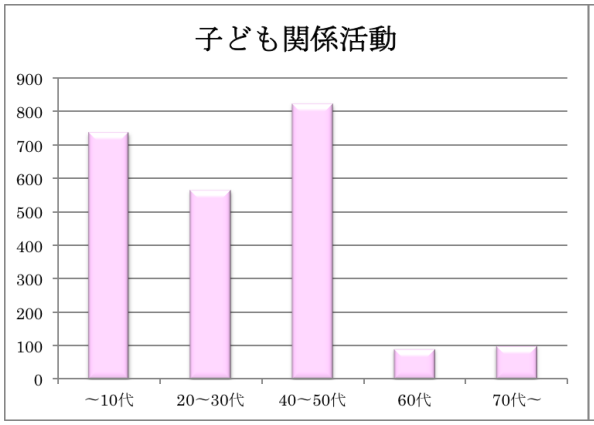
一組織の構成人数として、全構成員数を回答組織数で除し、大まかな構成人数を算定してみると、おおむね10～40 名（平均 27 名）で構成され、最も多いのは町会の 43 名である。

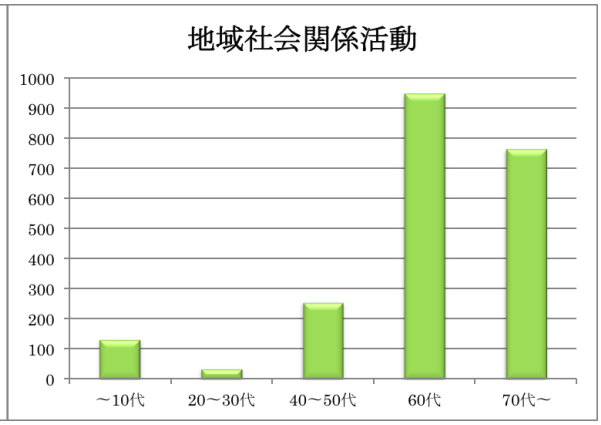
ただし、このアンケートにおける組織とは、組織全体を網羅したものなのか、あるいは執行役員を示したものなのかの線引きがあいまいであるため、データにばらつきが発生している可能性がある。例えば PTA などは、全体でみれば児童の保護者全員が組織構成の対象となり得るが、回答は執行役員であろう数値を示している。町会については、この活動目的が多義であり、執行役員の他に様々な当番が組織構成人数に反映されているものと思われる。



	PTA	育成会	学校応援団	地域子ども教室	町会	社会福祉	文化活動
女性	47	155	43	194	116	69	803
男性	27	105	30	78	102	19	571

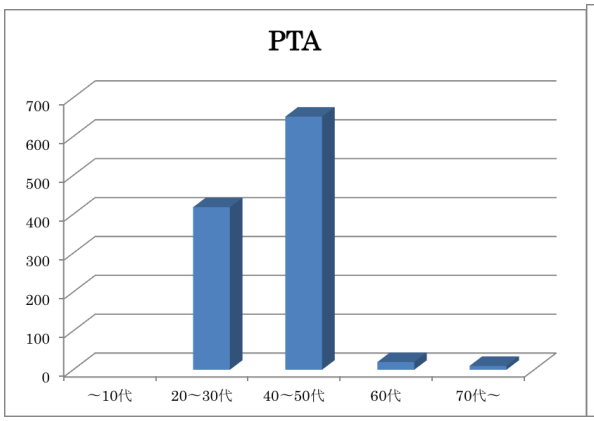
組織の男女構成比については全体的にみて、女性が 6 割、男性が 4 割という感じ。細かくみるとPTA や子ども教室、社会福祉は女性の割合がやや多くなる。

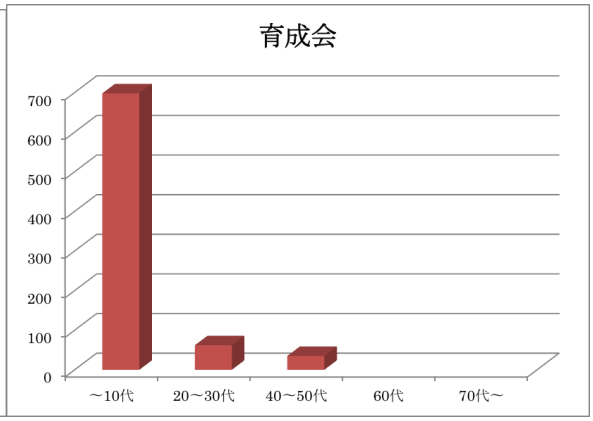


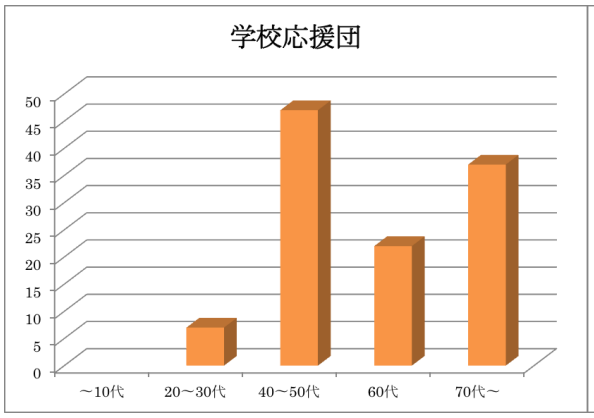


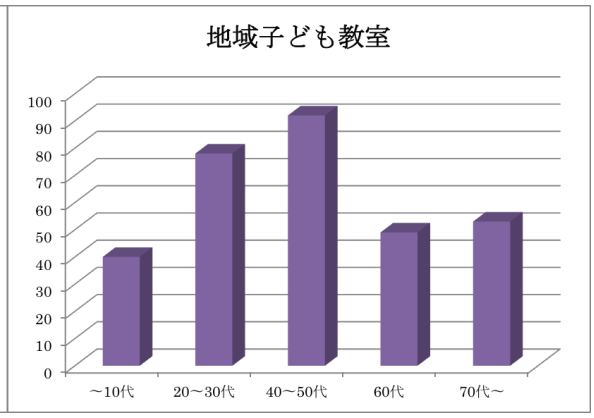
組織の活動規模が異なるので、横並びの数の比較に意味があるかどうかは難しいが、子ども関係は若い世代が多く、地域社会活動は年配者の参画が多いことは明白である。これは代表回答者の傾向とほぼ一致している。

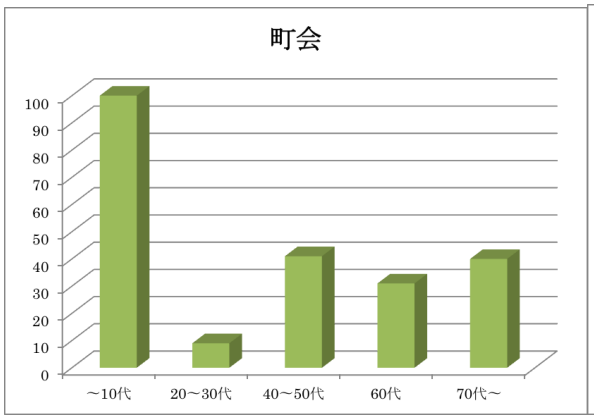
これを組織の分野ごとにグラフ化すると傾向が見えてくる。

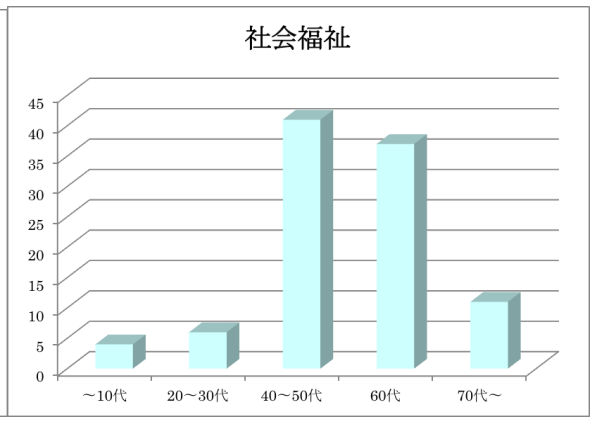


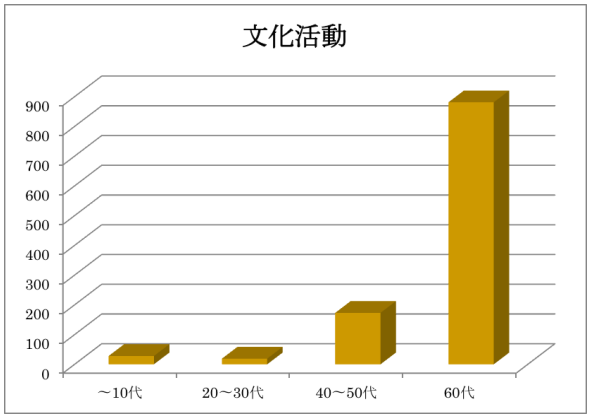












PTA はまさに親世代が中心になっている。また PTA と育成会は若い世代が中心、学校応援団、地域子ども教室は全体的にバランスしている。

社会福祉、文化活動は、年配者に集中しているが、これはそもそも組織のターゲットが高齢者ないし年配者であろうことから当然の結果である。

町会は、10 代のボランティア？を除けば年配層に集中している。育成会と町会における 10 代の参画数は特徴的である。

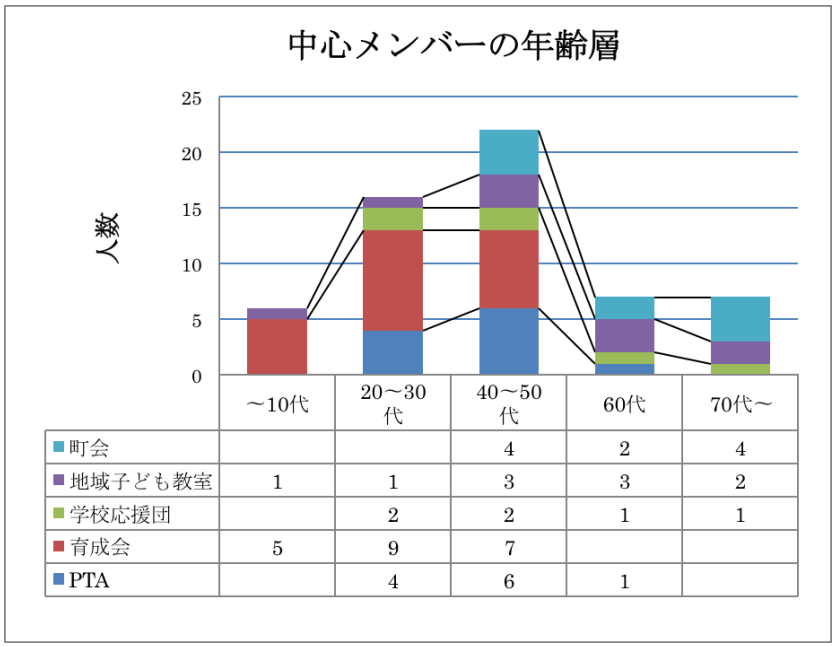
構成されているメンバーが多ければ、役割分担や事務所掌が細分化されて活動の幅が大きくなっているであろう。ただし、機能的かつ効率的に行われているか否かはケースバイケースだが、それでも後継者不足に悩む団体も少なくない。

それぞれの団体そのものが、どのような「担い手」「リーダー」を必要としているかは、今回の調査票だけではわからないことに気がついた。

ただし、構成員の少ない団体は、自身と同じ志ないしスキルを持った人間を欲している一方、構成人数の多い団体は、リーダー（マルチで柔軟な人や、好意的に奉仕できる人材）を欲しつつも、自分の自己負担を減らしたいと願う心理もあるのだろう。

年齢の点で見ると、団体や組織がその対象とする年齢に関わらず、「子ども」の活動には年齢制限はない。しかしながら、ＰＴＡや育成会などは組織の性質上、その構成員に制約や制限があることから、「担い手」を育てる目的が無いこと、活動に充てる時間を割くことができない現実も理解しておきたい。担い手を育てるのではなく、子育てをしていく過程（人生を四季に例えるようなもの）で、保護者が地域デビューする機会に恵まれていないのだろうかと、視点を変えて考察することも必要ではないか。地域デビューの機会、きっかけづくりを仕組むことが望まれる。

（５） 中心となっている人の年齢層
→傾向についての考察



	～10代	20～30代	40～50代	60代	70代～
町会			4	2	4
地域子ども教室	1	1	3	3	2
学校応援団		2	2	1	1
育成会	5	9	7		
PTA		4	6	1	

20～30 代、40 代～50 代(20 年)は他のデータレンジの 2 倍の範囲(60 代:10 年)であるが、二分しても 20 代から 50 代が中心となっている。

PTA 活動は 20 代～50 代、育成会は 10 代～50 代に顕著な傾向がうかがえる。

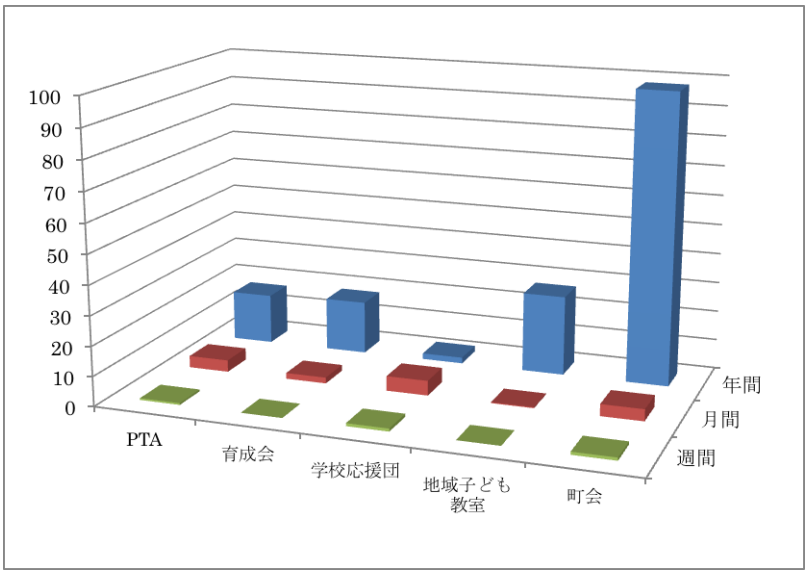
地域子ども教室と町会については 40 代以降が中心となっている。地域子ども教室の内容を吟味すべきだが、町会とリンクしているところをみると、年配層が学校勉強と異なった分野を指導している状況が彷彿される。

中心となっている人は、その目的やニーズにより、役員改選などのある組織では段階的に担う。

ただし、中心人物の周りには、必ずといっていいほど、同じ世代の世話人がいることに注目したい。これは構成員や構成年齢の層と照合しても一致するように思う。リーダー的存在になる人には、同じ意識や価値観を持ち年齢が近い他者の存在が必ずある。

しかし、興味や関心度、活動意識の低い組織運営が行われていくと、次第に役員の中のモチベーションも下がり役員内での不安が増していくことで、中心人物自身の意識低下につながっている現状もあるのではないだろうか。

（6） 活動に関わる日数



週間、月間、年間の活動日数が比例していないので、特別なことは言えないが、町会の年間 98 日はおよそ週 2 日の活動である。

PTA 及び育成会については週間から年間までが比例している一方、学校応援団の活動は短期的なものであるからそれなりのデータとして現れている。

組織の活動といっても、何らかの当番的なもの、会合、催しなどに分類されるので、分類するためには活動の質も別途考える必要があろう。町会の年間活動は、何らかの当番のような役割のものが反映されていると考えられる。

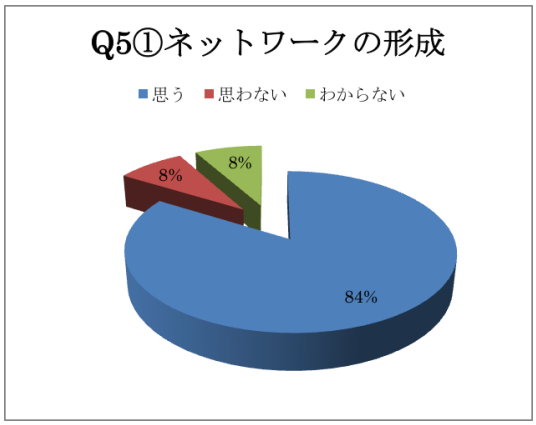
なおこのデータについては、週間と月間データのみを評価し、年間は別途除外して考えるべきかと思える。

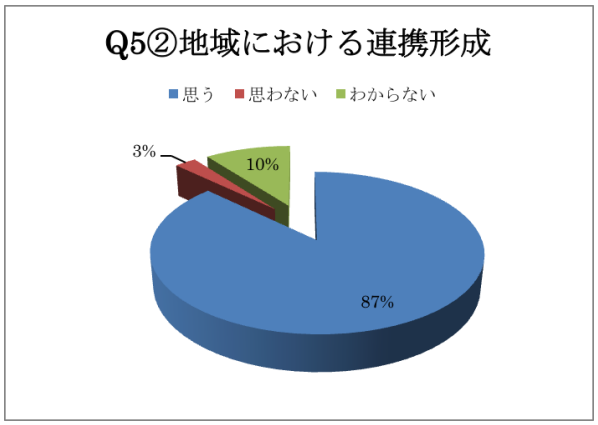
（7） 活動に入ったきっかけ

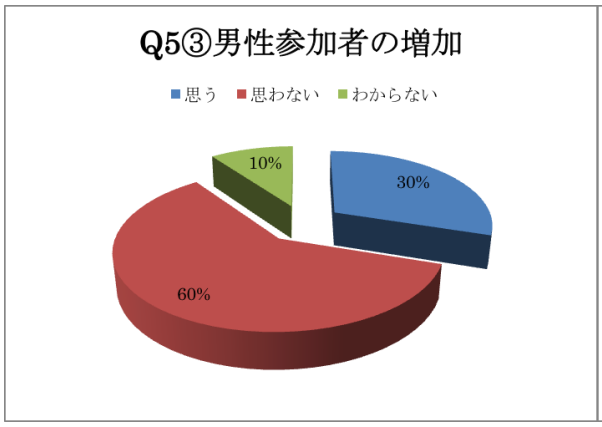
	PTA	育成会	学校応援団	地域子ども教室	町会	小計
退職					2	2
子育て期	1	15			1	17
知人友人の誘い	2	1	2	1	1	7
その他	4		2	5	3	14
計	7	16	4	6	5	

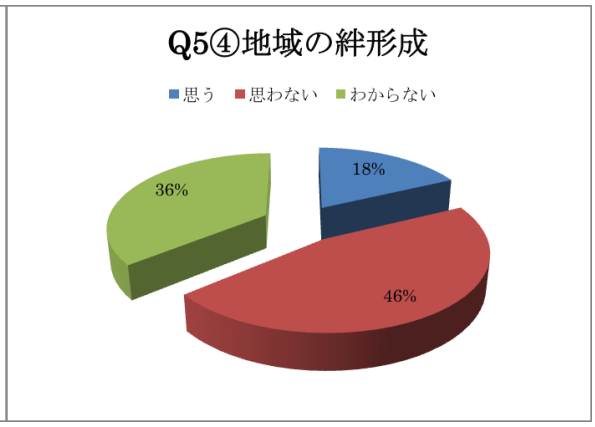
（８） 地域活動の効果と成果

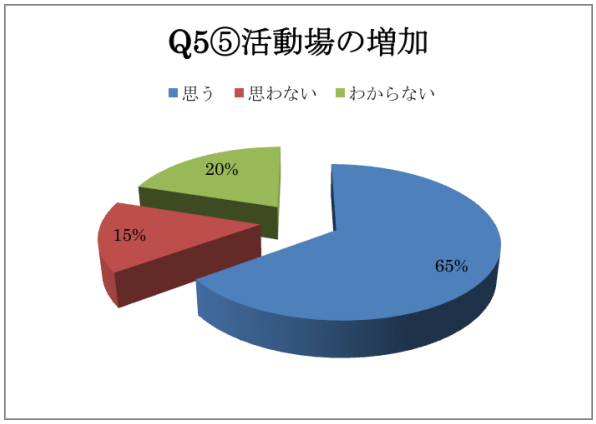
Q5) 地域活動の効果・成果について

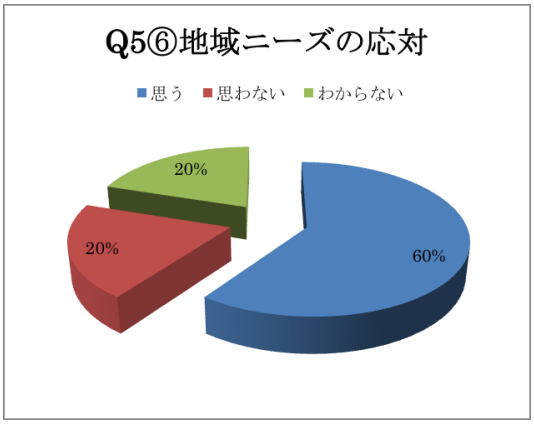


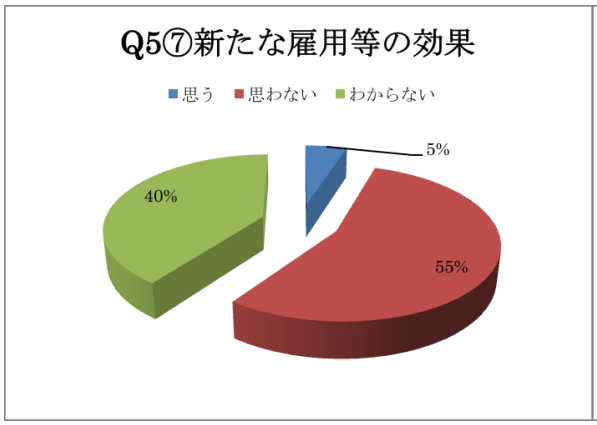


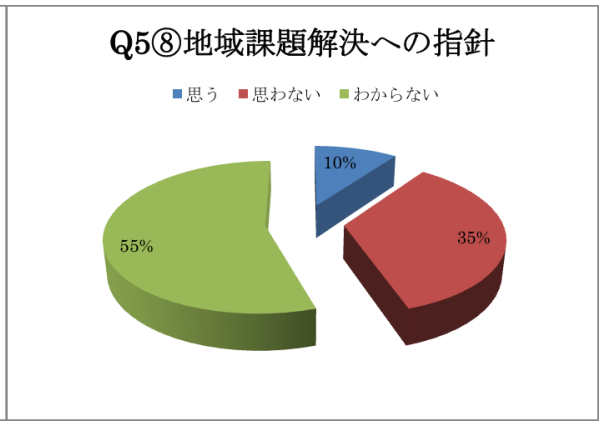


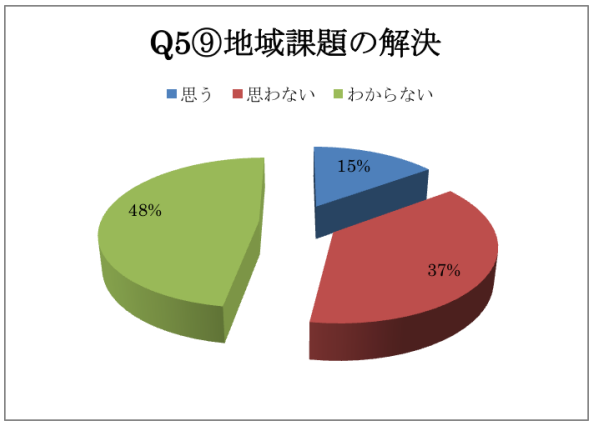










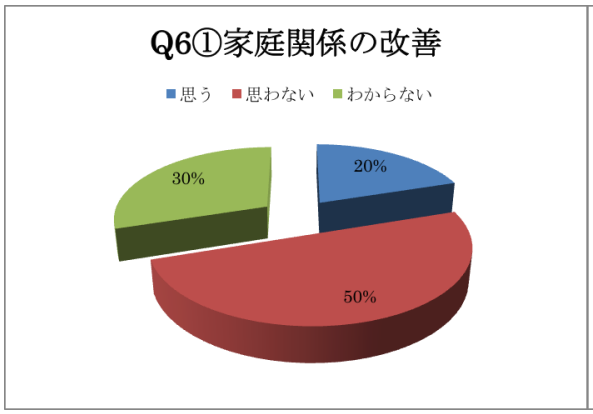


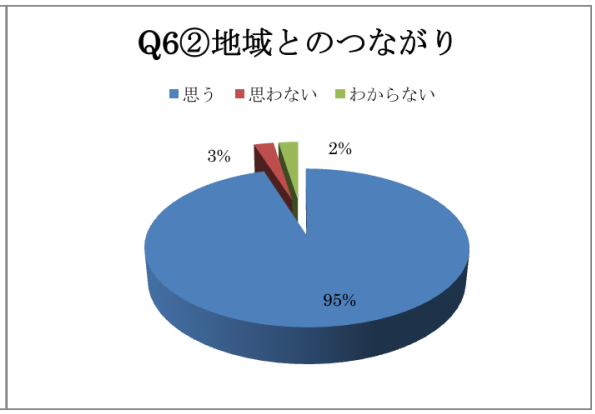
全体的にみると、活動の場が形成され、ネットワークや連携といった、具体的活動組織の土台は形成されていると感じている回答が多い一方、具体的課題の解決についてはあまり進捗していないという回答が多いように見られる。

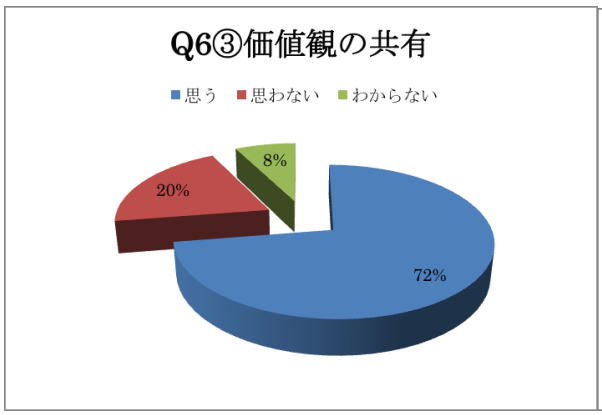
特に、孤立した個々の関係を改善することや、男性の参加を求めるような点については、ほぼ半数以上が効果は無いと認識している。

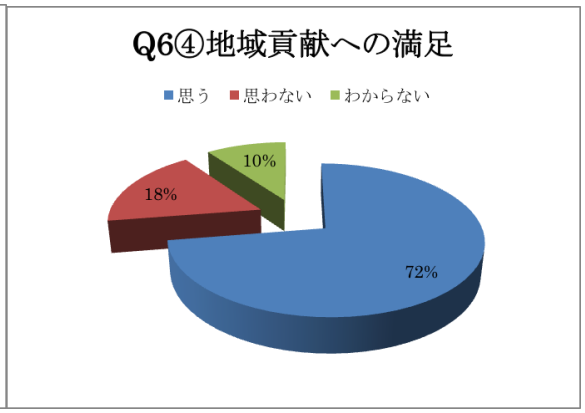
地域課題の解決に向けた指針等については、効果があったと認識する回答者は1割前後である。ある程度の組織が形成され、問題認識まで行っているが、具体的活動はできていないという意識かもしれない。

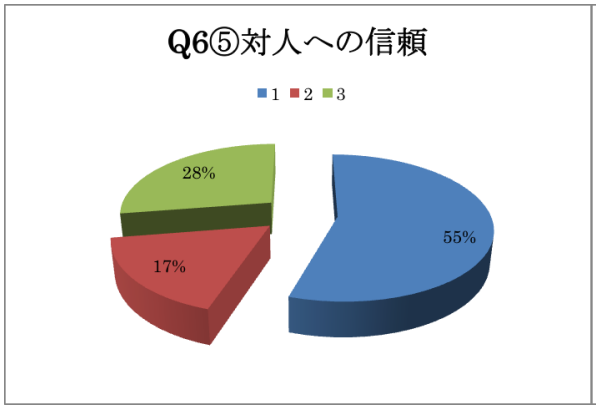
Q6) 自身にもたらした変化・成果について

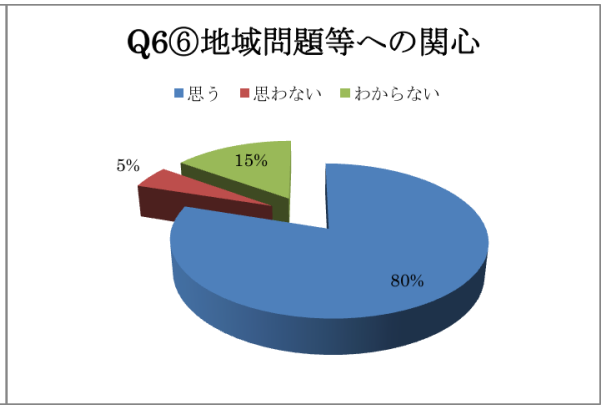


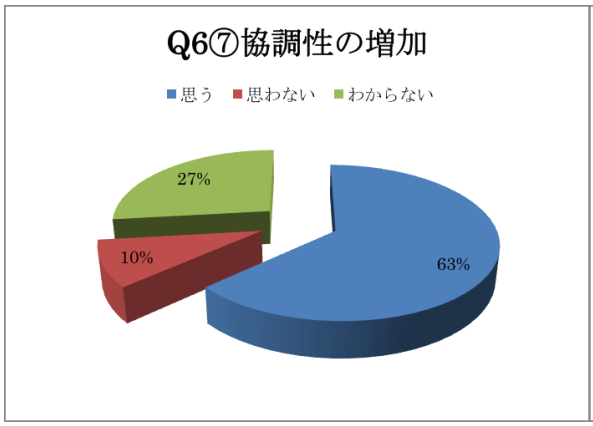


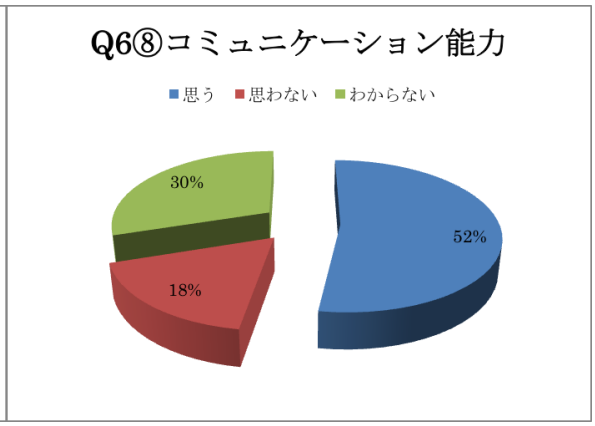


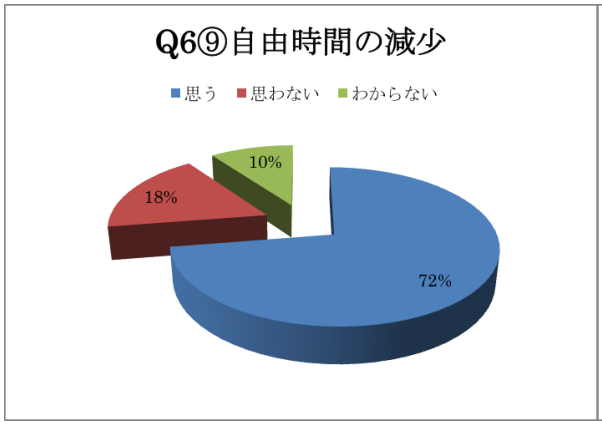


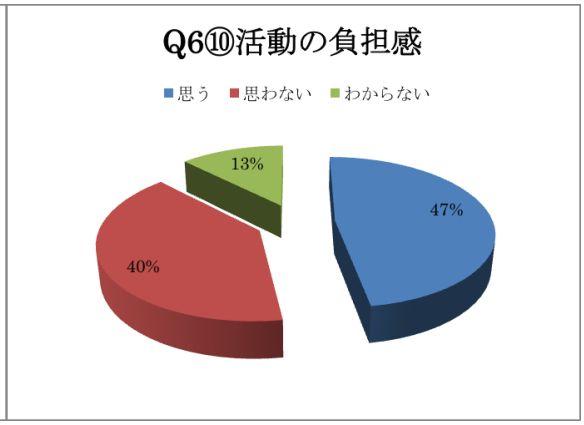


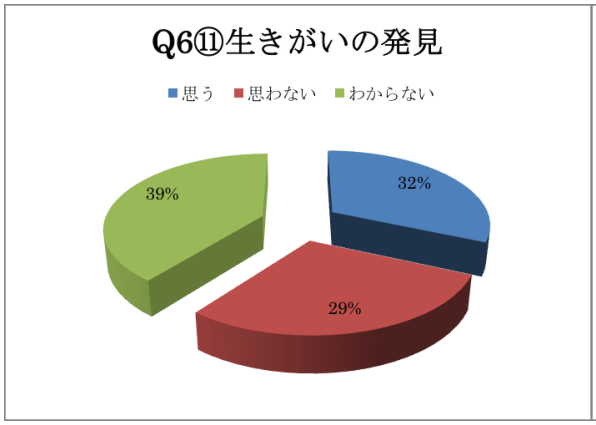


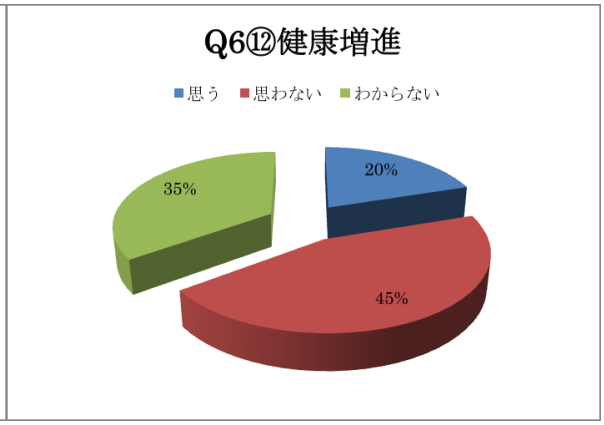










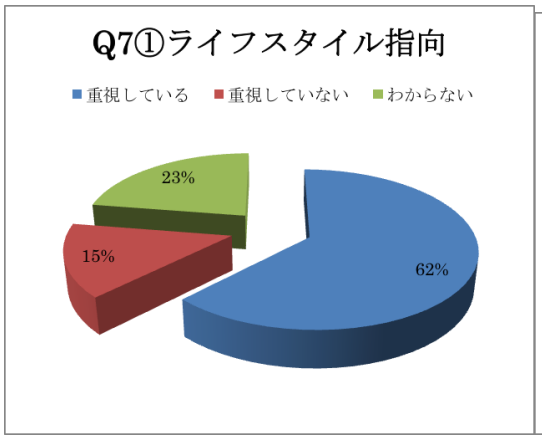


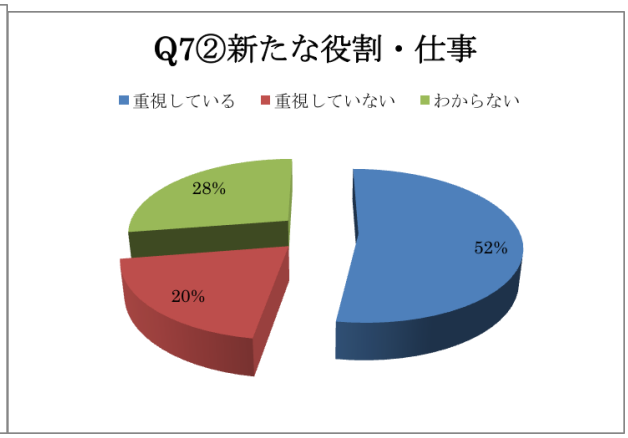
全体的にみると、地域活動に参加していること自体には満足感があるようだが、個人的な状況(家庭、健康、生きがい)については効果があったとしていない。地域活動に参加し人々と接することが受益であって、個人が特別に利することを目的としていない。むろん結果として得られる、社会における協調性やコミュニケーション能力の向上は効果として満足しているように見うけられる。

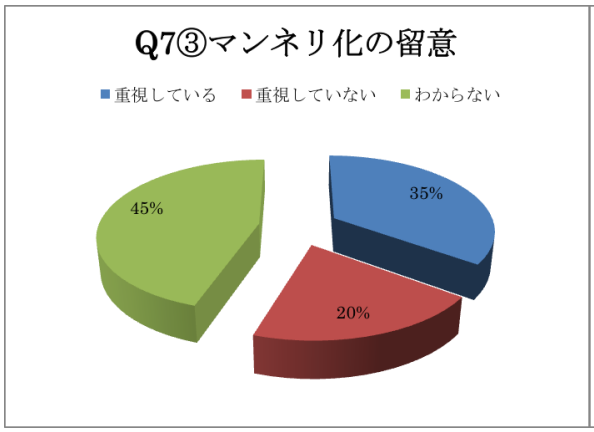
活動そのものはライフワークの一環と位置付けられるだろうが、「生きがい」という大げさな表現での回答を避けたのではという印象もある。
活動負担についてはQ7で9割以上が重視しているが、個人の意識レベルにおいては、負担感を意識する回答は約半分となっている。

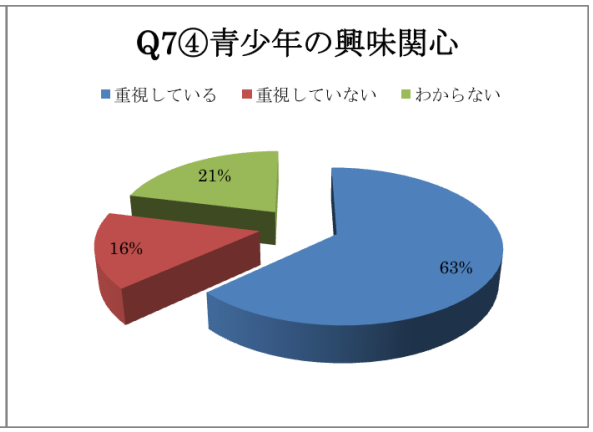
学校応援団：地域の方が子どもたちの活動に関わっていることを知り、感謝の気持や良い面を感じている。
地域子ども教室：①人とのつながりが広がった。②楽しいから活動に関わりたいと思ってくれる人が増えた気がする。

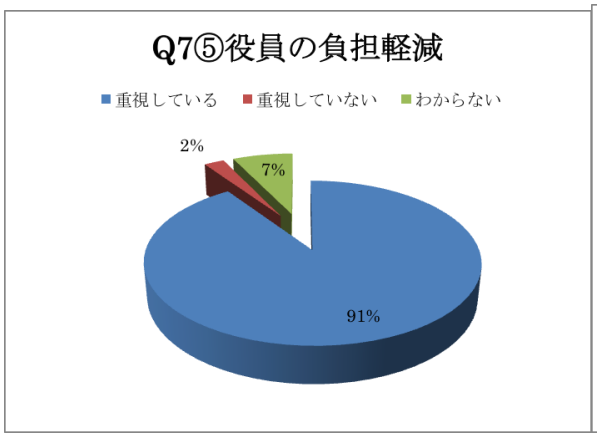
Q7）活動をおこなう上で重視していること：

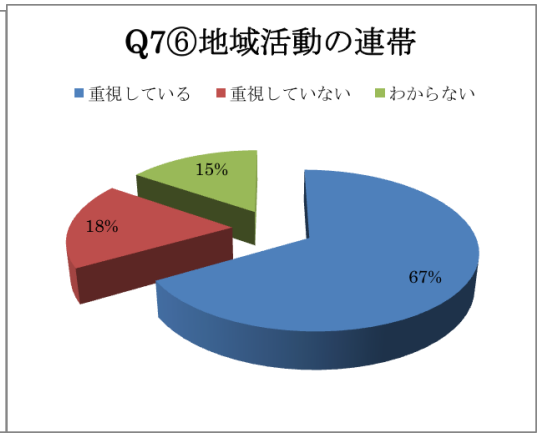


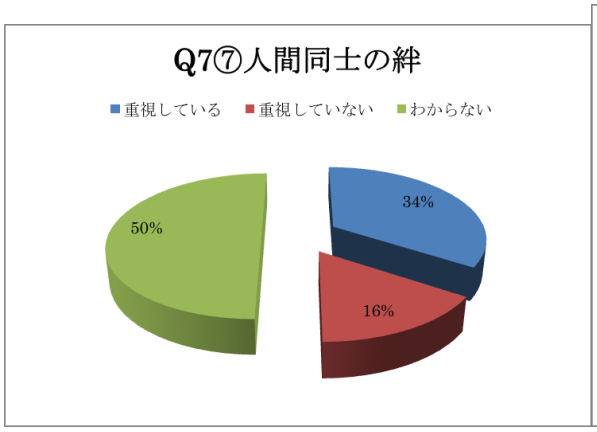


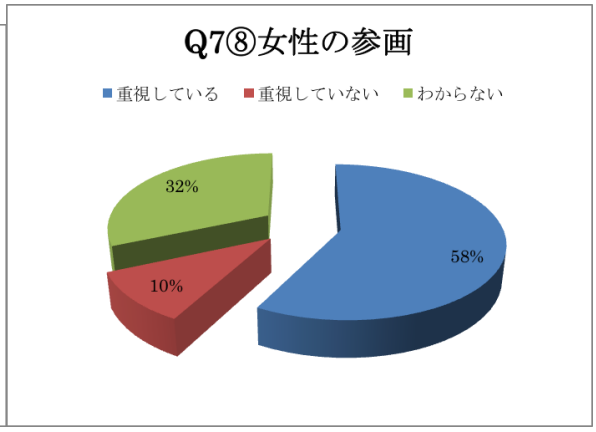


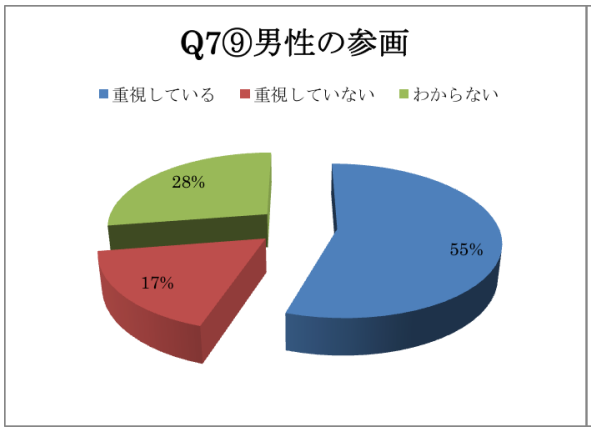


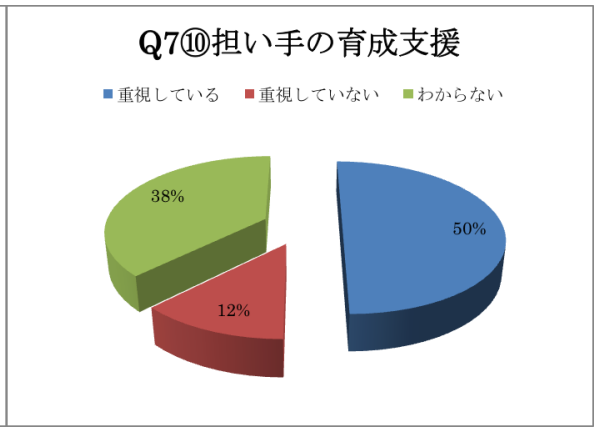












ボランティア組織の大きな課題である負担軽減に対する回答が顕著である。各組織においても全く同様の意思表示となっている。

その他に関しては、重視していないという回答はいずれも 20%以下であり、特に強い意志をあらわすような大きな特徴はない。

組織を維持したいが協力者が少ない、担い手がいない、交代できないというジレンマがある。

① 地域活動と仕事や家事･育児・介護等のバランスのとれたライフスタイルを指向している。しかし、活動の忙しさには波があり、通常の生活とのバランスは難しいので仕事の分担・分散が望まれる。
② 組織の活性化のためにも、新たな役割分担をのぞんでいる。
一方、組織の維持や仕事の効率化には今までの経験も活かしたいの考えもあるのではないか?
③ 地域活動のマンネリ化への留意は「重視していない」「わからない」が 50%近い。
本当はマンネリ化打破の願いは大いにあるのだろうが、打破のための膨大な労力･時間等から従来通りを選択しているのではないか?
それぞれの組織で、世代毎のリーダー育成が望まれているのでは。
④ 青少年の興味・関心を大事にした地域活動を望んでいるが、「重視していない」「わからない」も多い。
興味･関心に活動の重点を置き過ぎることを、本来の活動目的や成長のバランス面で躊躇する人もいるのではないか。
⑤ 役員の負担軽減は、活動者の願いとして大きいものである。働いている世代・高齢者の活動は、仕事の分散と人材開発が急務であろう。
⑥ 地域活動の中で「人とのつながり」を求めている。活動中の交流だけで終わりでなく、培った「人とのつながり」を広げ、つなげていくことが大切であろう。
⑦ 地域活動が人間同士の絆をつなぎ深めることもねらいであるが、活動を実施するだけで精一杯というのが実情ではないか。
余裕と魅力ある活動、そして地域への活動の周知等によって参加者を増やすことと、各人のコミュニ

ケーション能力の向上が必要と考える。

⑧ 各組織で男女・年齢のバランスを望んでいるのでは。
組織によって構成員の基礎が違うので、各組織が活動を語りつつバランスを考えた人材開発をしていくべき。

⑨ （同上）

⑩ 組織の担い手の育成や支援に、行政や連合体組織等の力を望んでいる。
人材育成には行政や連合体組織等の直接の支援も必要であるが、各組織活動の内容を把握した随時の相談体制も必要なのではないか。

（９） 地域活動に関する課題と今後について

Q8）活動上での課題について

① 個人的な課題

【PTA】
- 仕事量が多い・会議が重なる・会議が連日になる。
- 家族と過ごす時間が減り、仕事や家庭との両立が難しい。

【育成会】
- 会長の仕事量が多い。
- “長”の負担がとても大きい。
- 子どもの育成を目的にしているのに、自分の子どもは犠牲になっている。

【学校応援団】
- 仕事との両立が難しい。
- 自身の健康面の不安。

【地域子ども教室】
- 地域活動に関連する会議等が多く、他の活動との調整が厳しい。
- 夜の会議の時は、子どものみで留守番をさせることがある。
- 高齢者がいるので、家を空けるのが難しくなってくる。

【町会】
- 他の活動団体への動員が増え、自分の時間が激減した。
- 家族の理解が必要だが、家族との時間を無くさないように取り組むように心がけている。
- 役員任せで、役員のなり手もいない。住民が必要性を感じているのか判断に苦しんでいる。

② 組織的な課題

【PTA】
- 役員をやってくれる人材の確保。男性の参加者を増やす。
- 負担の軽減や、発言しやすい組織作りを。
- 障害に対する意識を変えてもらえる機会を作る。（特別支援学校）

【育成会】
- 同じ価値観を持ち、目標に向かって団結する。
- 保護者の関心が薄い。
- 役員の仕事の効率向上、負担軽減。

【地域子ども教室】
- コーディネーターの負担を軽減し、交代がスムーズにできる組織作り。
- 事業のマンネリ化になることも有るが、学校との協力で無理の無い運営を継続できたらよいのでは。

- 安全の確保。責任の所在が不明確。

【町会】

- 他人任せの人が多く一部の人に負担が掛かっている。
- 町会に加入する人が減ってきている。町会に関わっている人たちの高齢化で、存続できるか心配、組織の若返りが必要。
- 行政も町会を当てにしているが、相応の評価をしているのか？
  市民に町会の必要性等のアピールをするなどの努力が足りないのでは。

③ 地域の課題

【PTA】

- 世代の違いでライフスタイルが異なり、価値観の共有が難しい。
- PTA、学校、地域など各団体との連携

【育成会】

- 運営に関わる人が増えれば一人の負担が減るが、保護者の関心が低く“参加するだけ”の人が多く、協力が得られない。
- 町会とイベントの時期が重なることがあるので、活動が一緒に出来ると良い。
- 子どもの数の減少。

【学校応援団】

- お年寄りに声をかけて子どもたちとの交流をはかる。
- 学校が町会と話す機会があり、協力的になった。

【地域子ども教室】

- 活動への参加を呼びかけても、関心が低く反応が少ない。
- 興味を持ってもらえる事業の開催や、他地域からたくさんの人が転入してきたときにも、地域として一つになれるような仕掛けを作ること。
- 子どもたちの帰宅の配慮

【町会】

- 町会の役を受けているのは７０歳代、後継者がいない。人材も少ないので同じ人がいくつかの役を受けている。
- 住民が無関心だが、自分たちの住む場所を改善するという意識を創成しないと発展しない。

④ その他

【PTA】

- 役員の仕事量を軽減し、コンパクトな運営を行う。
- 行政からの当て職を無くす。

【育成会】

- 町会から求められるものが大きく対応できない。
- 育成会で抱えている状況を理解して欲しい。

【地域子ども教室】

- 男尊女卑が残っている地域、団体があり、事業を行っていくうえで支障をきたすことがある。
- 地域を大切にしたいと思っていたり、事業に協力したいと思っている人はたくさんいるが、コーディネーターとなると難しいようだ。

【町会】

- ボランティア精神の必要性。
- 役員、協力者への適正な評価をしなければ維持が困難になるのでは。

- 行政のバックアップが必要

Q9) 活性化や仲間を増やす取り組みについて

【PTA】

- 魅力ある行事を企画し、自分が楽しんでやること。
- 男性の参加が少ない、男性が関わりやすい時間に活動や会議を設定する。

【育成会】

- 育成会の認識が薄い、声を掛け合うことで関心を高めて新しい方の参加を促し、経験の多い方にはサポートの立場での活動を。
- 親子で参加・楽しめる行事、無理せず長続きする行事の工夫。

【学校応援団】

- 将来を担う子どもたちに、目に見える所での活動で地域に貢献する大人の姿を見せること、そして保護者には子どもたちの実際の活動を見てもらう。
- 保護者会・土曜参観等、学校で保護者の集まるときに話をする。

【地域子ども教室】

- 学校の入学説明時に「地域で子どもたちを育てる」話をし、地域では、多くの組織や友だち等に「一緒にがんばりましょう」の声掛けも大事にしながら活動を広く知ってもらう。
- 人が繋がり、安心できる地域であれば、子どもたちはのびのび生活できる。その環境づくりは、子どもたちの笑顔を見ることを喜びになることを心に、楽しみながら活動する大人の姿を見せる。そのことで、自分の住む地域を自分たちの力でより良くしていこうと思う人を増やす。

【町会】

- 各種行事等で町民への挨拶･声掛けを多くしながら、仲間への語り掛けを多くしコミュニケーションを深める。
- 楽しく、硬くならない、難しくない各種行事を工夫して交流の場を増やす。

（考察と提言）

ｱ) 役員として、自分が活動を楽しむ気持ちを持つこと。

《活動内容の工夫》

ｲ) 魅力ある楽しい活動に工夫していく。

ｳ) 目に見える活動をする。（子ども達・大人等）

《広報活動》

ｴ) 団体・組織（PTA・育成会・学校応援団・地域子ども教室・町会）の認識を深めるための活動をあらゆる場面で語っていくこと。

ｵ) 活動を語る場をそれぞれの中だけでなく、多くの場で多くの組織の活動について話せるようにしたい。たくさんの活動の情報を発信することで、協力者の幅が広がっていく。

ｶ) 活動のよろこび（子ども達の笑顔、活動による仲間の広がり等）を伝えていくこと。

ｷ) 文書での広報活動より、活動仲間・友だちから口伝えに誘い、理解・協力をもらう。

ｸ) 活動を知ってもらうことが、活動の理解・協力につながる。

ｹ)

《活動の連携》

ｺ) 赤ちゃん世代のコミュニティを工夫することが、幼稚園・小学校…と各世代の組織の活性化・充実につながる。

ｻ) 様々な地域活動をコーディネート出来る人がいるとよい。

（広報活動の点から）

- 余裕と魅力ある活動と地域への活動の周知等で参加者を増やすことと、各人のコミュニケーション能力の向上が必要。
- 活動中の交流で終わりでなく、培った人とのつながりを広げ、つなげていくこと。
- あらゆる機会を通じて語り掛け、実際の活動を、子どもたちにも保護者にも見てもらい理解を深める。活動を語り、活動の楽しさを見せて自分の住んでいる人や地域を愛することを語っていくこと。

（連携と支援の点から）

- 担い手を育てるのではなく、子育てをしていく過程（人生を四季に例えるようなもの）で、保護者が地域デビューする機会に恵まれていないのだろうかと、視点を変えて考察することも必要ではないか。地域デビューの機会、きっかけづくりを仕組むことが望まれる。
- 赤ちゃん世代からのコミュニティを充実させて、各世代コミュニティの充実と共にコミュニティの連続も図りたい。

- 多くの団体や組織では、高校生や大学生の参画が少ない（ほぼ無い）ことに注視しておくべきであろう。市内に大学が無いとしても、社会教育団体に関係するネットワークや行政委員等に委嘱される学識者の方々とのつながりが希薄なのではないだろうか。
- なお、若者の参画については、特に大学等では研究テーマや単位取得につながるボランティア活動としての関わりが多く、純粋に社会教育活動の志を持った 10 代～20 代の参画が少ないことを警鐘する必要がある。単位取得目的の学生がボランティア活動を経験して社会人になった後、新たに社会活動に興味を示すかどうかは不明。

Q10) これからの担い手やリーダー育成について

■質問 10－①　これからの担い手・リーダー育成について「必要である」

【PTA】

・運営にはリーダーが必要。興味をもってもらえる人に働きかける。

【育成会】

・担い手やリーダーがいれば、参加する家庭が増える。経験がなかったり、何もわからないうちにリーダーになると苦労も多い。子どもリーダーをつくり、育成していく。

【学校応援団】

・同じ人がリーダーを務めたりと負担も多い。後継者が育つと活性化につながる。

【地域子ども教室】

・リーダーは、組織の維持、活性化には必須条件である。活動の必要性や、活動のためのポイント、無理のない活動方法など、意識的に担い手・リーダーを育成していく。

・学校行事とのつながりから活動が始まるため保護者への積極的な呼びかけをしていく。

・年配者は補佐役に徹し、若手が中心となって企画・立案していく。

【町会】

・会をまとめていくにはリーダーは必要。同じ人が担う課題もあり、数年単位で交代していく仕組みづく

り。
・積極的に情報を開示し、新しいリーダー等の要請が必要。

■　質問10－②　これからの担い手・リーダー育成について「必要ない・わからない」

【PTA】
・リーダーは自然に発生していく人材であり、リーダー等を育成する組織ではない。
【育成会】
・育成会は１年で役員が変わってしまう。
・一般の人にとっては負担が大きすぎる。自主的ではなく割当にはつらいものがある。
【学校応援団】
・地域の学校のためにと集まった者であるのでリーダーの育成は視野になかったがいずれは必要となろう。
【地域子ども教室】
・一方的な養成講座のようなものに成果があるのかどうか。
・活動を通して人となりが見え、本人がその気になったときにリーダー養成講座は役立つ。
【町会】
・地域住民が多様化してしまい講習会等に足を向けない。
・今の人たちは育成に賛同しない。

（考察と提言）

ｱ)　価値観や考え方の異なる人たちが集う組織体である以上、まとめ役や舵取りのできるリーダーは必要であろう。

本来、リーダーは組織の中から自薦他薦等を問わず「一肌脱げる人」が自然発生的に生まれてくることが望ましいし、それを期待したい。

ｲ)　ただし、同じ人が長い間継続してリーダーを務めることや特定の個人に依存することは、組織の閉塞感を生みだし、組織自体が活性化せず維持・発展が難しい。

そのためには、役職の期間を決めたり、若い世代を巻き込む行事を立ち上げたりするなど、後継者やリーダーを育成していく仕組みや工夫が必要と考える。

ｳ)　中心人物の周りには、必ずといっていいほど、同じ世代の世話人がいることに注目したい。これは構成員や構成年齢の層と照合しても一致するように思う。リーダー的存在になる人には、同じ意識や価値観を持ち年齢が近い他者の存在が必ずある。

しかし、興味や関心度、活動意識の低い組織運営が行われていくと、次第に役員の中のモチベーションも下がり役員内での不安が増していくことで、中心人物自身の意識低下につながっている現状もあるのではないだろうか。

３　アンケート調査用紙

アンケート調査協力のお願い

富士見市社会教育委員会議

〔調査の趣旨〕

富士見市社会教育委員は、今期、「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」をテーマに掲げ、調査研究・協議を行っております。地域の団体の中には、参加者の高齢化・次につながるリーダーの不在・若者の活動不参加　等でその活動が大きく減速している傾向が見られます。その原因と課題を知って、社会教育行政に提起し、地域活動のさらなる活性化に生かせるよう、皆さまの貴重なご意見を本アンケートでお聞かせ下さい。

〔調査結果の活用〕

アンケート調査の結果は、インタビュー調査とあわせて分析し、それらの分析結果をもとに、地域活動の活性化と次代を担うなかまづくりの支援に活かせる改善要点を報告書としてまとめ、社会教育行政に提起させていただきます。

〔データの取り扱い〕

本調査により得られた内容は、適正に取り扱い、目的外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、以上の趣旨をご理解の上、アンケート調査に是非ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

≪調査概要≫
調査対象：富士見市内の社会教育関係団体
調査期間：平成２４年７月９日～７月３１日
調査方法：アンケート用紙による調査
回収方法：社会教育委員、教育委員会生涯学習課、もしくは市の公民館・交流センターへ
　　ご持参ください。
締め切り：平成２４年７月３１日(火)
調査内容：別紙アンケートのとおり

＜問合せ＞

富士見市社会教育委員会議　議長　西山　ひろみ
事務局　富士見市教育委員会　生涯学習課　担当　佐藤
電　話　０４９－２５１－２７１１　（内線６３１）
ＦＡＸ　０４９－２５５－９６３５
Email　kyouiku@city.fujimi.saitama.jp

あなたが所属している地域活動の内容について

【質問１】現在所属する地域活動の内容は次のうちどれですか？　あてはまるものの番号をいくつでも〇で囲んでください。

1 男女共同参画　2 まちづくり　3 子ども・子育て支援　4 高齢者福祉
5 障害者福祉　6 防災　7 環境　8 人権　9 国際協力
10 地域安全　11 経済活動の活性化　12 活動団体への支援
13 自己研鑽や学習（具体的に：　　）
14 文化活動　15 スポーツ、レクリエーション活動
16 その他（　　）

【質問２】現在あなたが所属する地域活動の形態としてあてはまるものの番号をいくつでも〇で囲み、具体的な活動内容等をご記入ください。

1 伝統のある地縁的な団体（自治会･町会、青年団や女性会等）
（具体的な活動等：　　）

2 状況やニーズに応じて結成された任意の団体
（子ども会・育成会、小学校の父親の会、講座・学習会修了生の会、子育てグループ、公民館サークル、PTA 等）
（具体的な活動等：　　）

3 NPO 法人

4 行政・公民館等がコーディネートする組織(委託・補助等を受けて活動する団体や連合組織)
（具体的な活動等：　　）

5 その他
（具体的な活動等：　　）

【質問３】あなたが、地域活動にはじめて関わったのはいつ頃ですか？あてはまる番号を１つだけ〇で囲んでください。

1 ２０歳未満　2 ２０歳代　3 ３０歳代　4 ４０歳代　5 ５０歳代
6 ６０歳代　7 ７０歳代以上

あなたの所属している地域活動の状況について

【質問４】あなたの活動する団体やサークルの状況やかかわり方についてお答えください。

① 名称など　　[　　]

※特に個人で活動されている方は記入不要です。

② 主な活動場所　[　　] 例）富士見市全域

③ 活動の対象　　[　　] 例）小・中学生

④ 人数　　約 [　　] 人

⑤ 活動する主なメンバーの年齢層とその人数　　※概算で構いません※

差し支えなければ、女性と男性のおおよその人数もお書きください

19 歳以下	約 [　　] 人	（女性〔　　〕人：男性〔　　〕人）
20～30 代	約 [　　] 人	（女性〔　　〕人：男性〔　　〕人）
40～50 代	約 [　　] 人	（女性〔　　〕人：男性〔　　〕人）
60 代	約 [　　] 人	（女性〔　　〕人：男性〔　　〕人）
70 歳以上	約 [　　] 人	（女性〔　　〕人：男性〔　　〕人）

⑥ 役員の人数　　[　　]人

⑦ 活動の中心となっている人の年齢層（当てはまるものに〇を付けてください。複数回答可）

19 歳以下　・　20～30 代　・　40～50 代　・　60 代　・　70 歳以上

⑧ 何をきっかけにこの活動団体に入りましたか。あてはまるものをいくつでも〇で囲んでください。例を挙げていますが、あてはまらない場合は「その他」にご記入ください。

大学等への進学　大学等の卒業　結婚　離婚　就職　失業
転職　退職　子どもの誕生　子育て期　子どもの独立
介護・看護　自分の病気　知人友人の誘い　など
特にきっかけはない
その他（具体的に　　）

⑨ 活動にどのくらい関わっていますか。

年間　（　　日）くらい
月に　（　　日）くらい
週に　（　　日）くらい

地域活動の社会的・個人的な効果・成果について

【質問５】今まであなたがおこなってきた地域活動の効果・成果として、次の項目についてどの程度あてはまりますか。あてはまる番号を〇で囲んでください。

項目	思う	思わない	わからない
1 地域のさまざまな団体とのネットワークができた	1	2	3
2 学校・家庭・地域のさまざまな連携ができた	1	2	3
3 男性の参加が少ない活動に男性の参加が増えた	1	2	3
4 孤立した人・家庭とのつながりがうまれた	1	2	3
5 地域の理解が深まり活動の場が増えた	1	2	3
6 学校や家庭や地域ニーズに対応し、必要な活動の提供ができた	1	2	3
7 新しい雇用やサービスなどの効果がみられた	1	2	3
8 地域の課題について、解決に向けたしくみがつくられた	1	2	3
9 地域の課題について、具体的な解決につながった	1	2	3

その他：自由記述

【質問６】地域活動をおこなってきたことがあなた自身にもたらした変化・効果として、次の項目についてどの程度あてはまりますか。あてはまる番号を〇で囲んでください

項目	思う	思わない	わからない
1 家庭内の関係がよくなった	1	2	3
2 地域のさまざまな人とのつながりができた	1	2	3
3 価値観を共有できるなかまができた	1	2	3
4 人の役に立てることによろこびを感じるようになった	1	2	3
5 人に頼れるようになった	1	2	3
6 地域や社会の多様な問題に関心をもつようになった	1	2	3
7 さまざまな人の考えや態度を受け入れられるようになった	1	2	3
8 コミュニケーション能力が身についた	1	2	3
9 自由な時間が少なくなった	1	2	3
10 活動の中で負担に感じることが多くなった	1	2	3
11 生きがいを見つけることができた	1	2	3
12 健康になった	1	2	3

その他：自由記述

【質問７】あなたが活動をおこなう上で、次の項目についてどの程度重視していますか。
あてはまる番号を〇で囲んでください。

項目	重視している	重視していない	わからない
1 地域活動と仕事や家事・育児・介護等のバランスのとれたライフスタイルを指向すること	1	2	3
2 共に活動する人たちが、今までの経験にかかわらず、新たな役割や仕事を担うこと	1	2	3
3 地域活動が、慣例や名誉的役員の存在によって固定的に分けられないよう留意すること	1	2	3
4 青少年が地域活動に興味関心を持つ取組みをすること	1	2	3
5 役員の負担を軽減し、みんなで協力する意識を高めること	1	2	3
6 さまざまな地域活動でつながること	1	2	3
7 地域で孤立した人・家庭がつながりをつくること	1	2	3
8 地域活動にかかわる女性が増えること	1	2	3
9 地域活動にかかわる男性が増えること	1	2	3
10 行政や連合体組織等が、担い手の育成や支援をすること	1	2	3

地域活動に関する今後の展望と課題について

【質問８】あなたの活動上での課題（乗り越えなければならない問題、難しい点等）について、①個人的な課題（家庭生活と地域活動のバランスや悩みなど）、②組織的な課題（団体の維持・活性化など）、③地域の課題（地域の活性化や住民の意識など） があればそれぞれご記入ください。

①個人的な課題

②組織的な課題

③地域の課題

④その他（①②③にあてはまらない課題や悩みなど、活性化にむけての課題など）

【質問９】あなたの所属する地域活動を活性化したり、なかまを増やしたりしていくには、どのような事が必要だと思いますか。また、そのために実践している取り組み等があればご記入ください。

【質問１０】これからの担い手やリーダーの育成についてご記入ください。

① 担い手やリーダーの育成は必要だと思いますか？　あてはまるものを〇で囲んでください。

はい　・　いいえ　・　わからない　・　その他（　　）

② ①の理由をご記入ください。

③ ①で「はい」と答えた方で、リーダーやなかまとして参加してもらいたい年齢層や性別などがありましたらご記入ください。

【質問１１】その他、地域のことや活動のことで感じていることやご意見があれば自由にご記入ください。

調査の結果を統計的に処理するために、次のことをおうかがいします。

①あなたの性別について、あてはまるものの番号を〇で囲んでください。

1　女性　　2　男性

②あなたの年齢について、あてはまるものの番号を〇で囲んでください。

1　２０歳未満　　2　２０歳代　　3　３０歳代　　4　４０歳代
5　５０歳代　　6　６０歳代　　7　７０歳代以上

③あなたが地域活動を行っているエリアをご記入ください。

市内（市内全域・＿＿＿小学校周辺　＿＿＿＿公民館　その他＿＿＿＿＿　）
市外（県内全域・＿＿＿＿＿＿市町村）

④　あなたの職業について、あてはまるものの番号を〇で囲んでください。

1 会社員　　2　公務員・教員　　3 団体職員
4 自営業　　5 パート・アルバイト　　6 現在は働いていない
7 その他（　　）

差し支えなければ、お名前とご連絡先をご記入ください。

ご回答いただいた内容の詳細についてインタビュー調査をお願いする場合もありますので、その際に利用させていただきます。ただし、アンケート調査の集計・分析自体は匿名性を重視して行い、結果を統計データとして活用する際にも、個人が特定されることはありません。

（ふりがな）
お名前

所属する地域活動の組織名

連絡先電話番号

E メールアドレス

＊　ご協力ありがとうございました＊